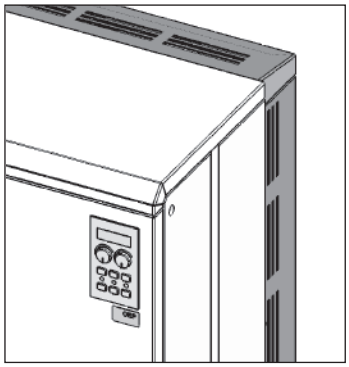
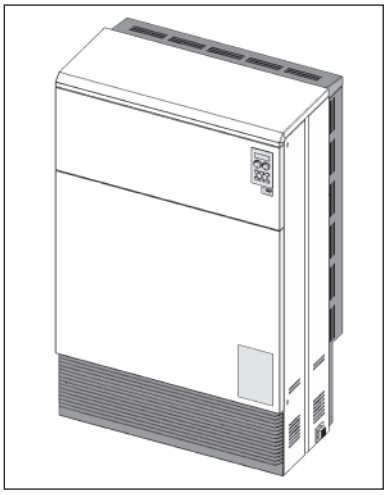
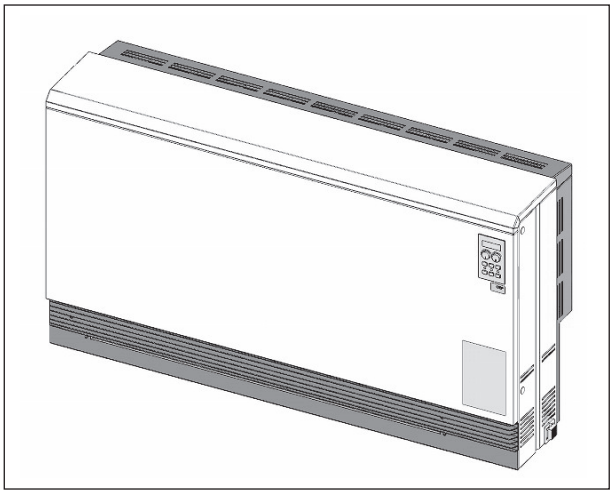
OLSBERG

User Manual　取扱説明書
Installation Manual　設置要領書　（保証書付）

ZG5外気温センサー（オプション品）対応品







Carat（キャラット）	標準型	14-51_-9
Montana（モンタナ）	縦長型	14-53_-9
Century（センチュリー）	横長型	14-55_-9

このたびは、オルスバーグ蓄熱式電気暖房器をお買い上げいただきまして誠にありがとうございました。
ご使用の前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みいただいた後は、保証書が付属しておりますので大切に保管してください。

蓄熱式電気暖房器が転倒した場合の対応

地震等で万が一、蓄熱式電気暖房器が転倒した場合は、転倒センサーの作動により電源が遮断されますが、
本体と床等可燃物が密着して火災になる恐れがありますので、以下の通り処置をお願いいたします。

1. 念のため、お手を触れずにブレーカーを切ってください。
2. 落下物など可燃物が近くにある場合は取り除いてください。
3. 暖房中に万が一転倒した場合には、念のため本体の周りから床などに水を掛けてください。
4. その後、すみやかに販売店、または工事店に連絡してください。

※水を掛ける場合は本体に直接掛からない様にご注意ください。
二次災害を防止する為の処置により発生した錆や変形等にかかわる修理代金はお客様のご負担となります。

Olsberg

1．取扱説明書／設置要領書　目 次

取扱説明書

1．目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2．ご使用前に良くお読みください ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3．製品の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4．操作部の位置関係と名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
5．操作方法
　1. 暖房開始の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　2. 通常の使い方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　3. 追焚き運転（強制蓄熱）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　4. チャイルドロックの使い方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　5. 暖房シーズンの終了 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　6. メニューボタンについて（表示の切り替え）・・・・・・・・・・ 8
　7. 時計合わせ方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　8. エラーの解除方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　9. ウィークリープログラムの使い方（ファン予約・減熱予約）・・ 10～13
6．お手入れの仕方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　■ ファンフィルターのお手入れ方法
　■ ファンのお手入れ方法
　■ 本体のお手入れ方法
　■ 吹き出しログリルの取外し方法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 15
7．ご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
8．故障かな？と思ったら ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

設置要領書

9．重要事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
10．お断り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
11．事前の点検確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　■ 設置場所の下地補強
　■ 障害物・可燃物に対する離隔距離について
　■ 配線工事について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
12．設置工事の段取り手順
　■ 蓄熱レンガの確認
　■ 同梱物の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
13．機種別 各部詳細寸法図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
14．組立作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　1. 上面パネルの取り外し
　2. 後部パネルカバーと側面パネルの取り外し
　3. 同梱部品の取り出し
　　縦長型（モンタナ）の補足説明 ・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　4. 上面前面パネルの外し方
　5. 蓄熱レンガ組み込み手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
　6. ヒーター素子の組み込み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
　7. ヒーター素子の結線
　8. 蓋レンガと上面マイクロサームの組み込み ・・・・・・・・・・ 25
　9. 補強金具の取り付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
　10. 転倒防止金具の固定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
　11. 床固定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　12. 外装パネルの組み付け ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
15．夜間電力時間の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
16．電源ケーブルの接続と配線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
17．試運転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
18．回路図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
19．ZG5 外気温センサー（オプション）・・・・・・・・・・・・・・ 30
20．製品仕様書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

2．ご使用前に良くお読みください

①蓄熱式電気暖房器“オルスバーグ”は、安全性に十分考慮して設計されておりますが、より安全で快適にご使用いただくために、下記の点にご注意下さい。
②ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や、家財の損害に結びつくものをまとめて記載しています。安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

	「禁止」を表します。
	「火傷の恐れあり」を表します。
	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

絶対に覆わないで下さい	燃えやすい物を置かないで	やけどに注意
●本体を毛布や衣類、タオル等で絶対に覆わないで下さい。	●本体の上や周囲には燃えやすい物を置かないで下さい。	●温風吹出し口に手足などを触れないで下さい。 ●乳幼児や体の不自由な方は暖房器に近づけさせないで下さい。
吹出し口を塞がないで	水をかけないで	本体に腰掛けないで
●温風吹出し口の近くに暖気を遮る物を置かないで下さい。	●花瓶の水をこぼしたり、雨の吹込みに気を付けて下さい。	●本体に腰掛けたり、物をのせたりしないでしないで下さい。
壁等から離して設置	不安定な場所に置かない	転倒防止金具を取り付けて
●家具や火燃物等との間は下図の様に離して下さい。 ●カーテン等燃えやすい物の近くでは特に守って下さい。 100　200以上　500以上　200以上　可燃物	●安定性の欠ける畳やカーペット等の上には直接設置することはできません。	●地震、その他による転倒を防ぐ為、転倒防止金具を固定して下さい。
据付工事は専門業者に	ブレーカーは指定容量で	単独ブレーカーの取付を
●必ずお買上げ販売店または、専門業者（電気工事士）に工事を依頼して下さい。	●指定容量（アンペア）のブレーカーを使用して下さい。 ON　OFF	●単独ブレーカーの取り付けが必要となります。 ON　OFF
アースは必ず接続	分解・改造は絶対不可	点検等はブレーカーを「切」に
●接続されていないと感電・故障の原因となります。 アース	●事故の原因となりますので、分解・修理・改造は絶対にしないで下さい。修理は販売店にご相談下さい。	●感電の恐れがありますので点検時は必ずブレーカーを切って下さい。 ON　OFF
ケーブル類が破損した場合の修理は、オルスバーグ指定のケーブルに修理交換するよう必ず専門業者に依頼してください。お客様は修理しないようお願い致します。		

3．製品の特徴

オルスバーグの蓄熱式電気暖房器は次のような数多くの優れた特徴を持っています。

■経済性

昼間の電気料金の約１／２～１／３で利用できる割安な深夜電力を利用して蓄熱するので非常に経済的です。
オルスバーグのマイコンは、使わなかった熱（残熱量）を計算し通電時間を自動制御します。
深夜電力の終了時刻から逆算して蓄熱開始時刻を決定しますのでとても経済的です。
各電力会社の割引制度が適用になりますので更にお得です。
（割引の詳細は電力会社によって異なります）

■簡単操作

暖房シーズンに入ったら、２００VのブレーカーをONにして蓄熱量を設定します。
季節に合わせて蓄熱量を調節すれば、後はオルスバーグのマイコンが毎日自動的に蓄熱します。
室温を設定し、ファンのボタンを押すだけで室温が下がると自動的にファンが回り快適温度を保ちます。
ファンには消し忘れ防止機能がありますので、蓄熱開始時刻になると自動的に切れて設定蓄熱量を確保します。
操作部も基本操作はダイヤルで操作できるように配置し、各種機能はメニューボタンを押して操作するように配置。どなたにでも簡単に操作することができます。

■安全性

火を使わないので火災の危険性が少なく、爆発や中毒、酸欠の心配もありません。
また、二重三重の安全機能が装備されておりますので常に安心してお使いいただけます。
オルスバーグ製品は独自に、オルスバーグアースクエークプロテクションの設計思想で
高い耐震性能を実現しました。（ＯＥＰ：Olsberg Earthquake Protection）

■快適性

本体の表面パネルが熱くなり、周りの空気を暖めて自然対流させるふく射熱と、内蔵のファンを回して行う強制放熱の複合暖房の為、とてもマイルドな暖房感です。
ファン運転時は室温設定の温度より室温が下がると自動的に回転を始め快適暖房を行います。

■クリーン性

燃焼が無いのでお部屋の空気を汚しません。また、一酸化炭素中毒の心配もありません。

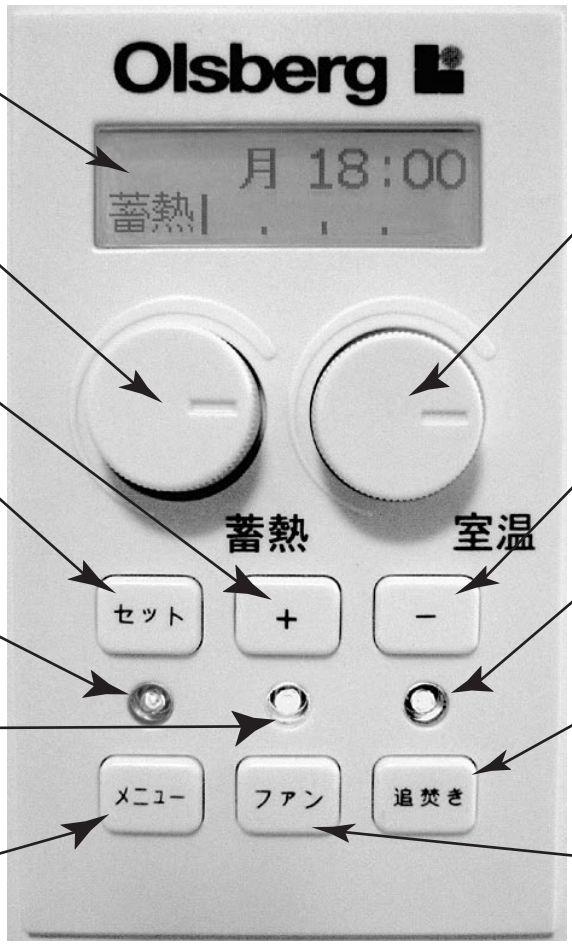
■メンテナンス性

シンプルな構造の為故障しにくく、操作も簡単で面倒な燃料補給も不要です。

■省エネの為に

例えば室温を２０℃以下に設定すると省エネ効果が期待できます。
室温が１℃上がると約６～７％電気代が高くなり、１℃下げる事で６～７％節約できます。
冬場に長期間に家を不在にする時は、ファンのスイッチを切り、蓄熱設定も低めにしておくか、又は減熱予約を使用するといいでしょう。
ただし、完全に切ってしまうと家が冷えてしまい暖房に時間が掛かりますのでご注意ください。
室内を常に保温状態に保つほうが経済的です。
換気をする時はファンのスイッチを切り、窓を広く開け短時間で換気したほうが経済的です。
外が暗くなったら、カーテンやブラインドを閉め、外に熱が逃げたり冷たい外気が侵入するのを防ぎましょう。

4. 操作部の位置関係と名称



LCDディスプレイ
通常は曜日・現在時刻
残熱量を表示します。

蓄熱設定ダイヤル
ダイヤルを回して蓄熱量
を設定します。（Ｐ６参照）

＋ボタン

セットボタン
設定の確定と移動及び
４秒長押しでチャイルド
ロックが掛かります。

蓄熱ランプ（赤）
ヒーター通電中に点灯
します。

ファンランプ（緑）
ファンスイッチがオンの
時に点灯します。

メニューボタン
表示の切り替えをします（Ｐ８参照）

室温設定ダイヤル
ダイヤルを回してファン
運転の室温を設定します。
（Ｐ６参照）

－ボタン

追焚きランプ（橙）
追焚き運転中に点灯します。

追焚きボタン
追焚きの開始と解除を
します。（Ｐ７参照）

ファンボタン
ファン運転のオン・オフを切り替えます。
（Ｐ６参照）

5. 操作方法

◇通常表示の例

●残熱量約40%を表示しています。
※残熱量が減るほど本体の温度は低下します。
※残熱量表示はあくまで目安とお考えください。

1. 暖房開始の準備

蓄熱暖房器は電源の接続方法が２種類あります。
下記を参考に接続方法に合わせた電源操作を行って下さい。

①時間帯別電灯契約（オール電化住宅など）で２００Ｖ電源のみで使用している場合。（本体背面側の電源配線は２００Ｖ線（1本）のみです）

１・本体ディスプレイが消灯していることを確認して下さい。
２・暖房を開始する時は蓄熱暖房器の電源（２００Ｖ）ブレーカーをオンにして下さい。
３・本体ディスプレイの時計表示を確認し、ずれている場合は時計合わせを行って下さい。（時計合わせ→Ｐ８参照）

②深夜電力契約等で２００Ｖ＋１００Ｖの２電源で使用している場合。（本体背面側の電源配線は２００Ｖ線と１００Ｖ線の2本です）

１・本体ディスプレイが表示されていることを確認して下さい。
※本体ディスプレイが表示されていない場合は１００Ｖ電源の接続（コンセント又はブレーカー）を確認して下さい。１００Ｖ電源を
オンにすると本体ディスプレイが表示されます。この場合チャイルドロックは解除されています。
２・暖房を開始する時は蓄熱暖房器の電源（２００Ｖ）ブレーカーをオンにして下さい。
３・チャイルドロックが設定されている場合は解除して下さい。　※セットボタンを長押し（４秒）すると解除されます。
４・本体ディスプレイの時計表示を確認し、ずれている場合は時計合わせを行って下さい。（時計合わせ→Ｐ８参照）

＜重要＞　・・・　時計表示が５分以上ずれていたら時計合わせを行って下さい。時計表示が大きくずれていると、夜間の蓄熱が
深夜電力の時間帯から外れることがあります。この場合、電気料金が高くなるのでご注意下さい。

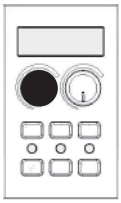
2. 通常の使い方

（1）蓄熱量の設定

夜間の時間帯に、設定された蓄熱量まで自動的に蓄熱を行います。（出荷時 ２３：００～：０７：００）

●蓄熱ダイヤルをゆっくり回すとバー表示に切り替わるので希望の蓄熱量を設定します。
（０～１００%無段階設定）
●蓄熱量の設定は下記の図を参考にお好みの設定を行って下さい。
●設定終了後、約30秒で通常表示に戻ります。
●蓄熱量を増やすほど本体の温度も高くなります。（火傷に注意）
※夜間の通電制御による蓄熱は残熱量を計算して蓄熱するので蓄熱設定値が一定でも
蓄熱開始時刻は変動します。

設定の目安	
	春・秋 ⇒ ５０%前後
	冬季 ⇒ ８０%前後～



（2）室温の設定（ファン運転の室温）

蓄熱式電気暖房器のファン運転は、設定した室温よりお部屋の温度が下がるとファンが作動し、設定した室温に達すると停止するという動作を自動的に繰り返します。
ファンの温風は蓄熱された熱を使用しているのでファンの稼動時間が長いほど蓄熱の消耗が早くなります。
室温設定を上げ過ぎると、室温が達するまでファンが回り続けるのでご注意下さい。

＜ファン運転の使用方法＞
●ファン運転の開始はファンボタンを押してスイッチをオンにします。
ファンランプ（緑）が点灯します。
●室温ダイヤルをゆっくり回すと室温表示に切り替わるのでお好みの室温を設定します。
（５℃～３０℃　０．５℃単位）
最初の室温設定は２０℃前後（１８℃～２２℃程度）を目安として室温を設定して下さい。

ご注意
朝7時前にファンを使用した場合、
設定蓄熱量に達しない事があります。

最小値　〔目安〕１８～２２℃　最大値
※室温設定は、お好みに合せて設定してください。

＜ファン運転を使用しない場合＞
●ファン運転を使用しない時は、ファンボタンを押してファンスイッチをオフにして下さい。
ファンランプ（緑）は消灯します。
●ファンは作動しないので自然放熱運転となります。

ご注意
※室温センサーは床面に近い為、居室の寒暖計の温度と異なる場合があります。
※一般的に寒暖計より低い温度を計測しますが、壁や棚が近い場合は熱の影響で高く計測される場合があります。
※本体の表面温度とファンの送風温度は蓄熱量の減少と共に低下します。室温設定を上げても本体の表面温度とファンの送風温度は上がらないのでご注意下さい。
※早朝など、まだ蓄熱している時間にファンを使用すると設定された蓄熱量に達しない場合があるのでご注意下さい。
※夜間のファン運転中に、通電制御による蓄熱開始時刻になると、蓄熱量を確保する為にファンは自動停止します。
ファンボタンを押すと再びファンは使用できますが、翌朝の蓄熱量が不足する場合があるのでご注意下さい。

3. 追焚き運転（強制蓄熱）

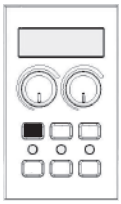
※時間帯別電灯契約(TOU)の場合のみ。

追焚き運転は時間帯別電灯契約（オール電化住宅など）で運転している場合のみ可能です。
本体の温度が低下した時など、更に蓄熱を行いたい場合に追焚き運転を行うことができます。
（注意）昼間電力の時間帯に追焚き（蓄熱）を行うと電気代が高くなるのでご注意下さい。

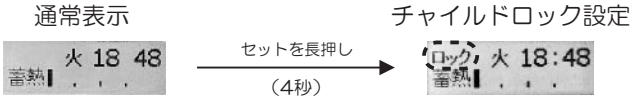
●追焚きボタンを長押し（４秒）すると追焚きランプ（橙）・蓄熱ランプ（赤）・ファンランプ（緑）の全てが点灯して追焚きを開始します。
●ファンを使用しない場合はファンボタンを押してオフにして下さい。
※追焚き中に設定蓄熱量まで達すると追焚きはオフになります。
※追焚き中に追焚きボタンを押すと追焚きはオフになります。（長押し不要）
※追焚き運転はオフタイマー機能により約２時間で自動的にオフになります。
※蓄熱設定値よりも残熱量が多い場合の追焚き運転はできません。

4. チャイルドロックの使い方

不用意な操作を防止する為に、全てのダイヤルとボタンの操作をロックします。



●通常表示の状態からセットボタンを長押し（４秒）すると「ロック」が表示され、チャイルドロックが設定されます。
●解除する場合は再度セットボタンを長押し（４秒）して下さい。
●チャイルドロック設定中に蓄熱ダイヤル又は室温ダイヤルが回された場合は通告としてバックライトが点灯した状態になります。バックライトを消灯するにはチャイルドロックを解除し、各ダイヤルを再設定した後に改めてチャイルドロックを設定して下さい。
※チャイルドロックは通常表示の状態から設定を行います。



5. 暖房シーズンの終了

蓄熱暖房器は電源の接続方法が２種類あります。
下記を参考に接続方法に合わせた電源操作を行って下さい。

①蓄熱暖房器を２００Ｖ電源のみで運転している場合（オール電化住宅などの時間帯別電灯契約の場合）
→　ファンスイッチをオフにして蓄熱ダイヤルと室温ダイヤルの設定を最小まで回します。
→　蓄熱暖房器の２００Ｖ電源（ブレーカー）をオフにして下さい。本体液晶表示が消灯したことを確認したら完了です。

②蓄熱暖房器を２００Ｖと１００Ｖの２電源で運転している場合（深夜電力契約等で１００Ｖ電源を併用している場合）
→　ファンスイッチをオフにして蓄熱ダイヤルと室温ダイヤルの設定を最小まで回します。
→　セットボタンを長押し（４秒）してチャイルドロックを設定します。（シーズンオフに誤って設定を行わない為）
→　蓄熱暖房器の２００Ｖ電源（ブレーカー）をオフにして完了です。（本体液晶表示は消灯されません）
※１００Ｖ電源がコンセント又は専用ブレーカーで接続されている場合はコンセントを抜いたり、ブレーカーをオフにすることで本体液晶表示を消灯することができます。

蓄熱暖房器の運転ポイント

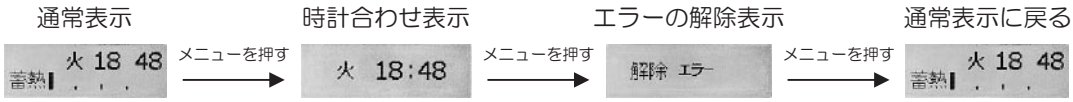
ポイント１　→　長時間のファン稼動は蓄熱量の減少が早くなります。
暖かい日中や不在の時などファン運転が不要な場合は、ファンスイッチをオフにするか室温設定を低めにして下さい。ファンの稼動が少なくなり、蓄熱量が長持ちします。

ポイント２　→　季節の変わり目には三寒四温など大きな気温の変化があります。
天気予報などで翌日の気温を確認して蓄熱設定を調節することをお勧めいたします。

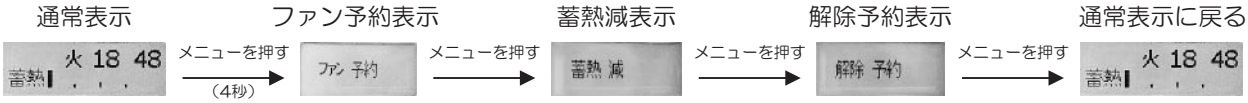
6. メニューボタンについて（表示の切り替え）

メニューボタン　・・・・・メニューボタンは、表示の切り替えの他に、長押し（４秒）することにより予約モードに入ることができます。

●メニューボタンを押す毎に下記の表示に切り替わります。



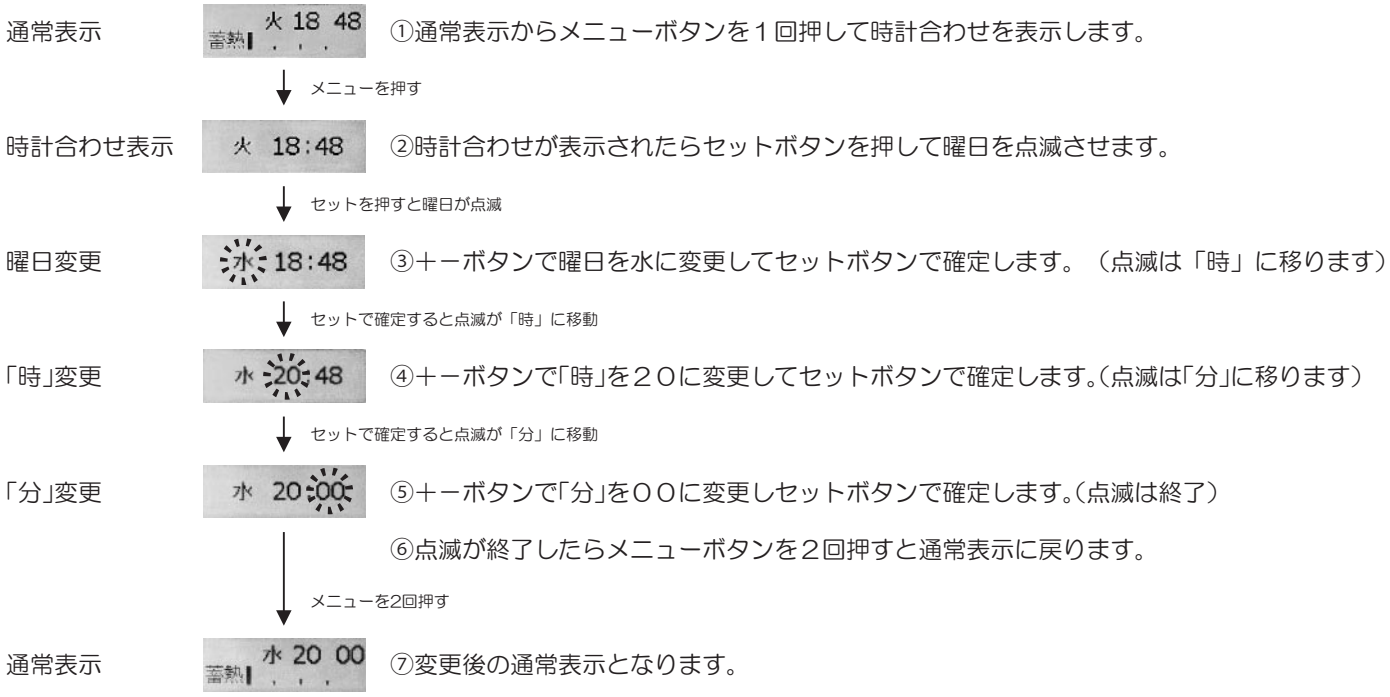
●メニューボタンを長押し（４秒）すると予約モードに入ります。（ウィークリープログラムの設定と解除を行います）
メニューボタンを押す毎に下記の表示に切り替わります。



7. 時計の合わせ方

●通常表示からメニューボタンを押して時計合わせを表示させます。下記の要領で時計合わせを行って下さい。

（例）　火　１８：４８　→　水　２０：００　に変更する場合



※オルスバーグ蓄熱式電気暖房器はバックアップ電池による停電補償機能により電源が遮断された状態（表示パネルが消灯している状態）でも時計が働いているので、通常はシーズン初めの時計表示に大きな狂いはありません。
時計表示が大きく狂っている場合はバックアップ電池が消耗している可能性があるので交換が必要です。
※電池が消耗しても時計合わせを行えば運転可能です。
※停電補償は約10年です。（計算値）

■バックアップ電池の交換　　時計のバックアップ電池は、本体の右側面パネルの中にあるメイン基板に取り付けられています。（ＣＲ２０３２）
電池を交換する場合は、右側面パネルを開ける必要がありますので、お買い求めの販売店にご連絡下さい。

8. エラーの解除方法

エラーの解除は、エラー＃３、＃８、＃９のいずれかが表示された場合に解除（リセット）を行います。

- 暖房器にエラーが発生した場合は本体液晶表示のバックライトが点灯し通常表示とエラー表示が交互に表示されます。
- エラーは稀にノイズ等の影響で表示される場合があります。
- 自動復帰のエラーの場合、ノイズ等の影響が無くなればエラー表示が消えるのでそのまま御使用いただけます。
- エラー表示が消えない場合は販売店にご連絡いただき、点検を行って下さい。

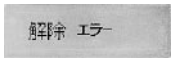
＜注意＞
深夜電力契約など１００Ｖと２００Ｖの２電源を使用している場合は、シーズン初めに２００Ｖ電源（ブレーカー）をオンにすることを忘れて蓄熱を行うとエラー＃３が表示される場合があります。
これは２００Ｖ電源（ブレーカー）がオフの状態で蓄熱が行えなかった為なので故障ではありません。
２００Ｖ電源（ブレーカー）をオンにしてから下記の手順でエラーの解除を行うと通常表示に戻ります。

エラー解除の手順

エラー表示　

●通常表示とエラーが交互に表示

↓ メニューを2回押す

エラーの解除表示　 

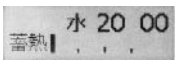
●エラー解除の表示を呼び出す

↓ セットを押す

OK表示　

●セットボタンを押してOKを表示させる
再度セットボタンを押して確定

↓ OK表示後に再度セットを押し確定
メニュー押して通常表示にする

通常表示　 

●メニューボタンを押して通常表示に戻す

■二つ以上のエラーが同時に発生した場合

●エラー番号が並んで同時に表示されます。
説明書を良くお読みになりエラー解除を実施してください。

◇エラー番号には＃１～＃９があります。

［エラー＃１］　室温センサーの異常 ・・・（自動復帰）

●本体右側面の下部にある室温センサーに異常がある場合に表示されます。
●エラーが表示し続ける場合は販売店にご連絡頂き点検を行って下さい。
●稀にノイズが原因でエラーが表示されることがありますが、自動的にエラー表示が消えればそのまま御使用いただけます。

［エラー＃２］　コアセンサーの異常 ・・・（自動復帰）

●蓄熱量を感知しているコアセンサーに異常がある場合に表示されます。
●エラーが表示し続ける場合は販売店にご連絡頂き点検を行って下さい。
●稀にノイズが原因でエラーが表示されることがありますが、自動的にエラー表示が消えればそのまま御使用いただけます。

［エラー＃３］　蓄熱状態の異常 ・・・・・（エラー解除で復帰）

●正常に蓄熱が行われなった場合に表示されます。
●上記の＜注意＞をご覧いただき、電源ブレーカー（２００Ｖ）を確認して下さい。
●翌日もエラーが表示し続ける場合は販売店にご連絡頂き点検を行って下さい。

［エラー＃４］　転倒センサーの異常 ・・・（電源リセットで復帰）

●本体が約２５度以上傾いた場合に表示されます。
●25度以下の傾きでも強い揺れにより表示されることがあります。
●解除するには２００Ｖ電源（１００Ｖ併用の場合は１００Ｖ電源）のリセットを行います。
●蓄熱暖房器の設置状態に不具合が無いことを確認して電源（ブレーカー）をオフにし、数秒以上おいてから再度電源をオンにして下さい。

［エラー＃５］　本体内温度の上昇 ・・・・（自動復帰）

●本体内部の温度が高くなりすぎた場合に表示されます。
●本体内部の温度が下がるとエラーは自動的に消えます。
●室温が高い時に蓄熱量設定が高く設定されていたり、本体の近くに壁や棚等があって熱が篭った場合にも表示されることがあります。
●この場合、蓄熱量の設定を少し低めにするか、又は熱の対流を促す為に本体周囲の空間を広くすると改善されることがあります。

［エラー＃７］　時計の異常 ・・・・・・・・（時計再設定で復帰）

●電源（ブレーカー）をオンにした際に時計の読み込みが正常に行われなかった場合に表示されます。
●この場合、「時計合わせ」（Ｐ８参照）を行うことでエラーは解除されます。
※時計用のバックアップ電池（CR2032）が消耗すると電源（ブレーカー）投入時に必ず＃７が表示されますが「時計合わせ」を行うことにより御使用いただけます。但しバックアップ電池の交換を推奨いたします。
●「時計合わせ」を行ってもエラーが表示し続ける場合は販売店にご連絡頂き点検を行って下さい。

その他のエラー［＃８・＃９］・・・・・・・・●エラー解除及び電源リセットを行ってもこれらのエラーが表示される場合は販売店にご連絡頂き、点検を行って下さい。

9. ウィークリープログラムの使い方

オルスバーグの蓄熱式電気暖房器はウィークリープログラム機能が搭載されています。ファンの運転予約及び蓄熱量の蓄熱減設定が曜日単位で予約できるのでライフスタイルに合わせた快適な運転を行うことができます。
また各予約プログラムはシーズンオフにブレーカー電源（１００Ｖ・２００Ｖ）をオフにしても設定内容は保持されます。

＜ファン運転予約の設定＞

指定した曜日、時刻になると自動的にファンのスイッチをON・OFFする機能です。
予め用意されている６つの登録済プログラム（Ｐ11参照）から１つを選択します。（設定の変更も可能です）
●ファン運転予約の設定は通常表示から下記の手順で行います。

手順１ メニューボタンを長押し（４秒）してファン予約モードに入る。

↓

手順２ セットボタンを押して表示された変更・登済・削除の中から登済（＋ボタン）を押す。

↓

手順３ 登済番号が点滅するので＋・－ボタンを用いて使用する登済番号（１～６）を選択し、セットボタン（確定）を押す。

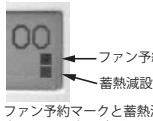
↓

手順４ 初期設定のまま設定 → ＃1が点滅したらメニューボタンを4回押して、通常表示に戻ると登録済プログラムの設定が完了。
設定を変更する場合 → 設定を変更する場合は＃１が点滅した状態から＋・－ボタン（値の変更）及びセットボタン（確定及び点滅の移動）を用いて各＃の設定を変更します。
※値を変更したら必ずセットボタンを押して確定して下さい。
変更が終了したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻ると変更したプログラムの設定が完了。

設定例（登録済プログラム１を選択してファンON時刻を６：００→６：３０に変更して予約設定する場合）

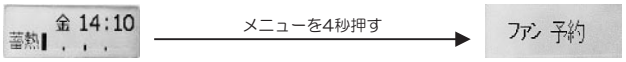
※ボタン操作は30秒無操作になるとリセットされるのでご注意下さい。

ご注意

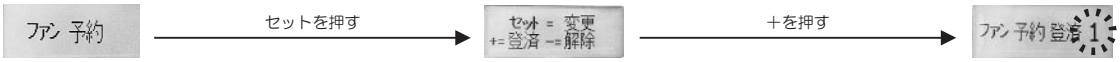


ファン予約マークと蓄熱減設定マークは表示される位置が異なりますのでご注意ください。

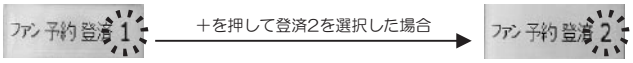
１・通常表示からメニューボタンを長押し（４秒）してファン予約モードに入ります。



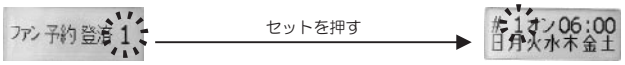
２・セットボタンを押して選択画面が表示されたら＋ボタンで「登済」を選択します。



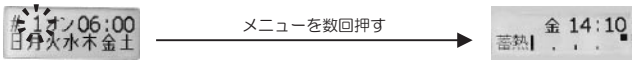
（参考）
「登済１」が点滅している時に、＋・－ボタンを押すと他の登済２～６の選択ができます。



３・セットボタンを押すと「登済１」が決定され、「登済１」の予約番号＃１の内容が表示されます。

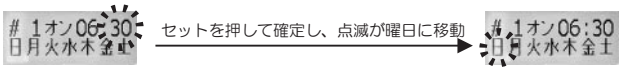


（参考）
設定内容の変更がなければメニューボタンを４回押して通常表示に戻すと登済１の予約が完了します。

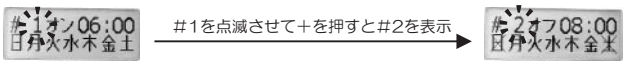


４・＃１の内容を変更する場合はセットボタンで点滅を変更項目に合わせ、＋・－ボタンで変更します。

５・変更したらセットボタンで確定します。（点滅は隣に移ります）



（参考）
セットボタンを押して行き、予約番号＃を点滅させ、＋・－ボタンを押すと他の予約番号＃が表示され同様に変更ができます。



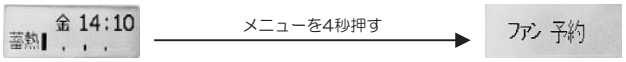
６・全ての設定変更が終了（確定）したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻して予約完了です。

※予約設定はオンの時刻とオフの時刻が矛盾しないように設定して下さい。予約は設定時刻の順に基づいて動作します。
※予約設定はオンとオフが１セットで働きます。オン・オン又はオフ・オフ等同じ動作が続く設定では働かないのでご注意ください。
※予約設定が通電制御の蓄熱開始時刻より遅く設定されている場合は、予約優先となるので蓄熱が開始されてもファンはオフになりません。
蓄熱中に長時間のファン運転が行われると蓄熱不足になるのでご注意下さい。

＜ファン運転予約の設定確認＞

●現在のファン運転予約の確認はファン予約モードから変更を選択すると現在の設定が表示されます。

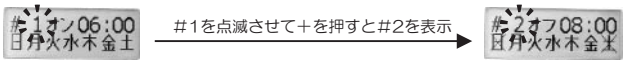
1・通常表示からメニューボタンを長押し（４秒）してファン予約モードに入ります。



2・セットボタンを押して選択画面が表示されたらもう一度セットボタンを押して変更を選択すると現在の設定内容が表示されます。

注意　→　この時、＋ボタンを押して登済を選択すると登録済の初期値が呼ばれ、現在の設定が消えてしまうのでご注意下さい。

3・点滅している予約番号#を＋又はーボタンで変更すると、全ての予約番号#の内容が確認できます。



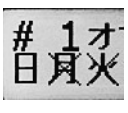
4・設定内容の変更を行う場合は、「ファン運転予約の設定」と同様に行うことができます。

5・確認又は変更の作業が終了したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻します。

＜登録済プログラム一覧＞

登録済 ファン予約設定リスト

登録済プログラム番号	予約番号	運転モード	設定時間	曜日設定							想定使用状況
				日	月	火	水	木	金	土	
ファン 予約 登済 1	#1	ON	06：00	○	○	○	○	○	○	○	通常使用時
	#2	OFF	22：00	○	○	○	○	○	○	○	
ファン 予約 登済 2	#1	ON	06：00	○	○	○	○	○	○	○	週休2日（土日）で平日日中不在の場合
	#2	OFF	08：00	×	○	○	○	○	○	×	
	#3	ON	17：00	×	○	○	○	○	○	×	
	#4	OFF	22：00	○	○	○	○	○	○	○	
ファン 予約 登済 3	#1	ON	06：00	○	○	○	○	○	○	○	週休1日（日）で平日日中不在の場合
	#2	OFF	08：00	×	○	○	○	○	○	○	
	#3	ON	17：00	×	○	○	○	○	○	○	
	#4	OFF	22：00	○	○	○	○	○	○	○	
ファン 予約 登済 4	#1	ON	07：00	×	○	○	○	○	○	×	職場での使用（土日休み）
	#2	OFF	19：00	×	○	○	○	○	○	×	
ファン 予約 登済 5	#1	ON	09：00	○	×	×	×	×	×	○	週末のみ使用する別荘等 金曜日の夜到着 日曜日の夜出発
	#2	ON	17：00	×	×	×	×	×	○	×	
	#3	OFF	19：00	○	×	×	×	×	×	×	
	#4	OFF	23：00	×	×	×	×	×	○	○	
ファン 予約 登済 6	#1	ON	07：00	○	○	○	○	○	○	○	午前午後不在となる場合
	#2	OFF	09：00	○	○	○	○	○	○	○	
	#3	ON	11：00	○	○	○	○	○	○	○	
	#4	OFF	14：00	○	○	○	○	○	○	○	
	#5	ON	16：00	○	○	○	○	○	○	○	
	#6	OFF	22：00	○	○	○	○	○	○	○	



●表中の「○」は設定あり。ディスプレィ上に「×」表示なし。
●表中の「×」は設定解除。ディスプレィ上に「×」表示あり。
※左の例では、「日」は設定。「月火」は設定解除となります。

＜蓄熱減予約の設定＞

設定された曜日の蓄熱量を下げる予約を行います。小旅行に行く時など、不在時の不要な蓄熱を防ぐので省エネ効果があります。
現在の蓄熱設定に対して曜日毎に最大７０%まで（10%単位）減熱することができます。
予め用意されている５つの登録済プログラム（下記参照）から１つを選択します。（設定の変更も可能です）
※ ボタン操作は３０秒無操作になるとリセットされるのでご注意下さい。

● 蓄熱減予約の設定は通常表示から下記の手順で行います。（通常運転の場合、減熱０%表示となります）

手順１ メニューボタンを長押し（４秒）してファン予約が表示されたら、もう一度メニューボタンを押して蓄熱減を表示させる。

↓

手順２ セットをボタン押して表示された変更・登済・削除の中から登済（＋ボタン）を押す。

↓

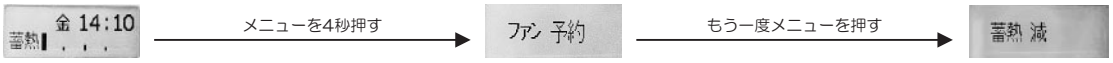
手順３ 登済番号が点滅するので＋・－ボタンを用いて使用する登済番号（１～５）を選択し、セットボタン（確定）を押す。

↓

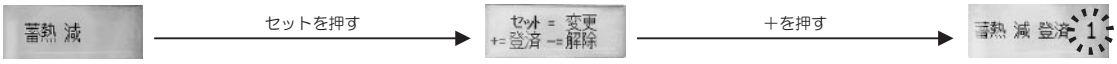
手順４ 初期設定のまま設定 → 曜日が点滅したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻ると登録済プログラムの設定が完了。
設定を変更する場合 → 設定を変更する場合は＋・－ボタン（値の変更）及びセットボタン（確定及び点滅の移動）を用いて曜日と減熱%の設定を変更します。
※値を変更したら必ずセットボタンを押して確定して下さい。
変更が終了したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻ると変更したプログラムの設定が完了。

設定方法（例：月・火・水が旅行で不在になるので登録済１を変更して設定する場合）

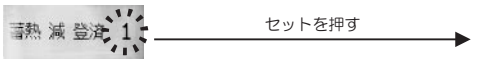
１・通常表示からメニューボタンを長押し（4秒）してファン予約モードを表示させ、もう一度メニューボタンを押して蓄熱減を表示させます。



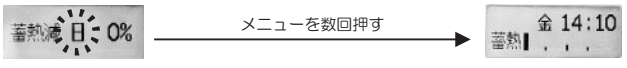
２・セットボタンを押して選択画面が表示されたら+ボタンを押して登済を選択し、登済1を表示させます。
※この時+又はーボタンで登済2～5を選択することもできます。



３・登済1が表示されてセットボタンを押すと登済1の設定内容（曜日　%）が表示されます。

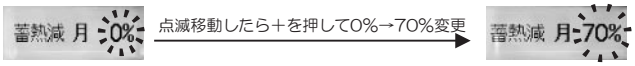


（参考）設定内容の変更がなければメニューボタンを数回押して通常表示に戻して設定完了です。

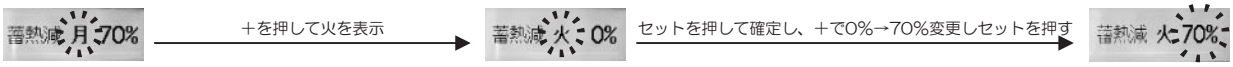


４・設定内容を変更する場合は点滅している項目を+又はーボタンで変更し、セットボタンで確定します。（点滅は移動します）

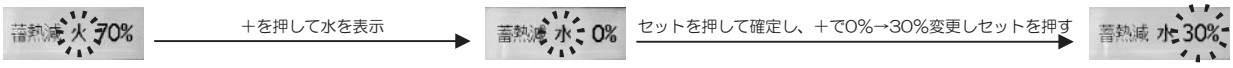
５・点滅箇所を、変更する項目に合わせたら+又はーボタンを押して設定を変更し、セットボタンで確定します。（点滅は移動します）



６・点滅箇所を、変更する項目に合わせたら+又はーボタンを押して設定を変更し、セットボタンで確定します。（点滅は移動します）

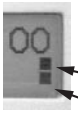


７・点滅箇所を、変更する項目に合わせたら+又はーボタンを押して設定を変更し、セットボタンで確定します。



８・全ての設定変更が終了（確定）したらメニューボタンを押して行き、通常表示に戻して予約完了です。

ご注意



ファン予約マークと蓄熱減設定マークは表示される位置が異なりますのでご注意ください。

＜登録済プログラム一覧＞

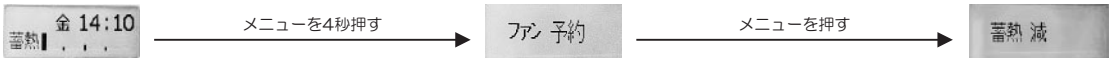
登録済 蓄熱減設定リスト								
登録済蓄熱減設定メニュー	曜日設定							想定使用状況
	日	月	火	水	木	金	土	
蓄熱 減 登済 1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	通常使用時
蓄熱 減 登済 2	0%	30%	30%	30%	30%	30%	0%	
蓄熱 減 登済 3	0%	30%	30%	30%	30%	30%	30%	
蓄熱 減 登済 4	70%	0%	0%	0%	0%	0%	70%	週末に使わないオフィス等
蓄熱 減 登済 5	0%	70%	70%	70%	70%	30%	0%	週末のみ使用する別荘等

◇蓄熱減の設定%は、設定されている蓄熱量に対する%となります。
〔計算の仕方〕
蓄熱設定値x（100%ー減熱設定値）＝蓄熱量　80%設定時に50%減熱設定した場合→80%x（100%−50%）＝40%
60%設定時に30%減熱設定した場合→60%x（100%−30%）＝42%

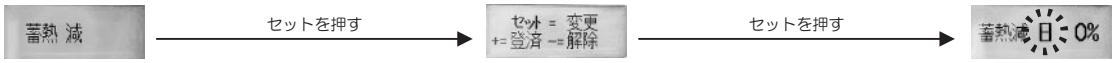
＜蓄熱減予約の設定確認＞

現在の蓄熱減予約の設定内容は下記の手順で確認することができます。

1・通常表示からメニューボタンを長押し（4秒）してファン予約モードを表示させ、もう一度メニューボタンを押して蓄熱減を表示させます。

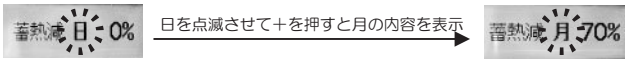


2・セットボタンを押して選択画面が表示されたらもう一度セットボタンを押して変更を選択すると現在の設定内容が表示されます。



注意　→　この時、＋ボタンを押して登済を選選択すると登録済の初期値が呼ばれ、現在の設定が消えてしまうのでご注意下さい。

3・点滅している曜日を＋又はーボタンで変更すると各曜日の設定が確認できます。



4・設定内容の変更を行う場合は、「蓄熱減予約の設定」と同様に行うことができます。

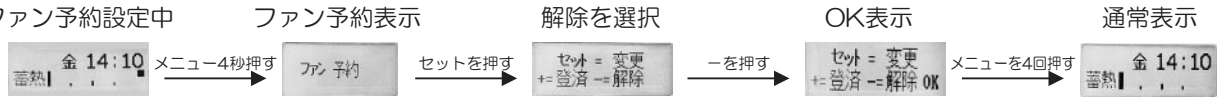
5・確認又は変更の作業が終了したらメニューボタンを3回押して通常表示に戻します。

＜予約の解除＞

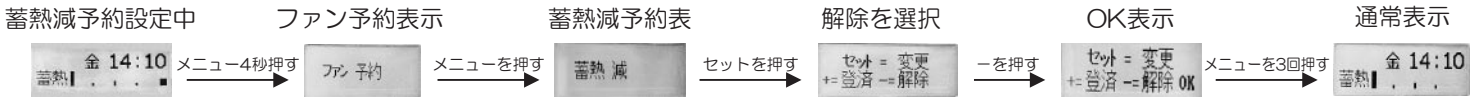
予約されたファン予約及び蓄熱減予約はそれぞれ個別で解除する方法と、一度に両方解除する一括解除があります。

個別解除の方法

●ファン運転予約のみ解除



●蓄熱減設定のみ解除



一括解除の方法　※ファン予約又は蓄熱減予約のどちらか1つの予約設定中でも一括解除が使用できます。

- メニューボタンを長押し（4秒）て予約モードに入り、メニューボタンを2回押して解除予約を表示させます。
- 下記の手順で操作を行うと全ての予約が解除されます。

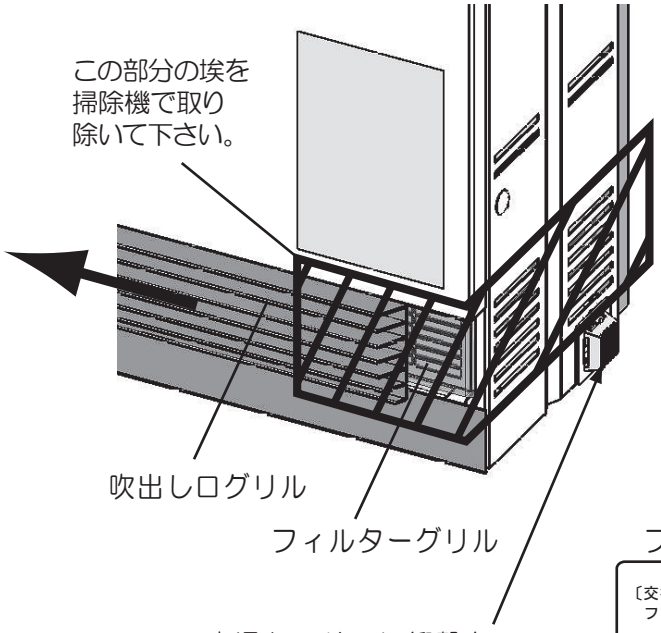
全ての予約解除

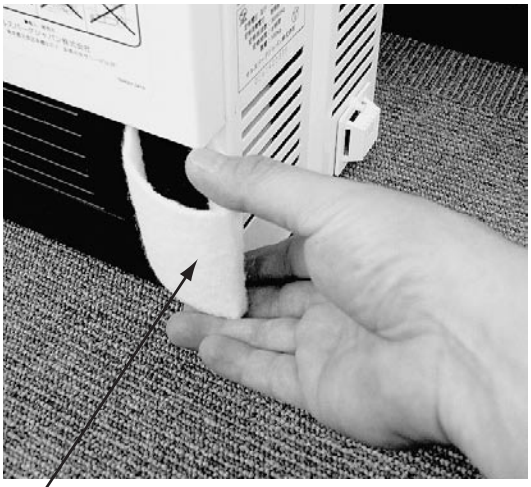
6．お手入れの仕方

●オルスバーグの蓄熱式電気暖房器は、お手入れが簡単になっています。
●オルスバーグは、ファンフィルターを装備しております。
埃の付着度合いに応じてフィルターを定期的にお手入れしてください。
（暖房シーズンに入る時にお手入れするのが理想的です。）

■ファンフィルターのお手入れ方法

①日常のお手入れは1ヶ月に1回程度、フィルター装着部の外側から掃除機を当てて
埃を取り除いて下さい。また本体周辺の床面も掃除機で埃を取除いて下さい。
②シーズンの始まりには下図の様に吹き出しグリルを左にスライドさせて内部フィルターを引き出し、
掃除機で埃を除去することを推奨します。
※吹き出しグリルが熱くないことを確認の上、行ってください。
※グリル内の左右にある取付ビスが締まっている場合は、少し緩めて行ってください。
※シーズン中は熱によりスライドしにくい場合があります。
この場合、本体が冷めた状態（シーズンオフ等）で行うと動き易くなります。





〔交換用フィルターセット〕･･･別売部品
フィルターの交換が必要な時は、下記型番にて販売店にご注文ください。

1．標準型２～４ｋＷ（14-512-9、14-513-9、14-514-9）	：	１４－５１２１．９２９９
2．標準型５～７ｋＷ（14-515-9、14-516-9、14-517-9）	：	１４－５１６１．９２９９
3．縦長型 全機種　（14-534-9～14-536-9）	：	１４－５３４１．９２９９
4．横長型 全機種　（14-552-9～14-556-9）	：	１４－５５３１．９２９９

※各セット５枚入り

■ファンのお手入れ方法

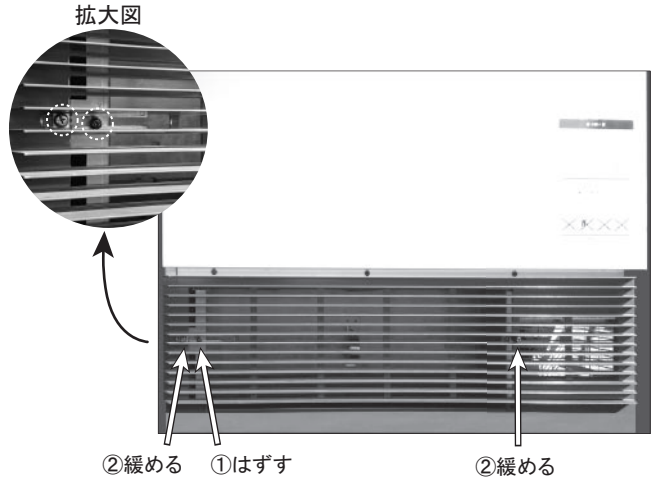
●ファンは本体内部に固定されています。
●ファンフィルターを通過してしまう細かいチリや埃がファンに付着しますので、定期的な
点検清掃が必要です。
●お手入れの頻度は取付環境やご使用状態によって変わります。
●購入後一回目のお手入れは二度目の暖房シーズン前に行う事をお勧めします。
（それによってお手入れのサイクルを決定できます）
※ファンの点検清掃は、保証期間内でも有償となります。
詳しくはお買い求めの販売店にお問合せ下さい。

■本体のお手入れ方法

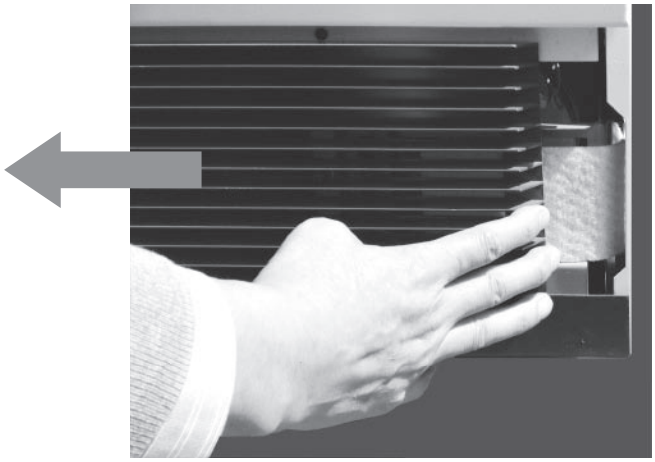
●本体が汚れた時は、柔らかい布に少量の中性洗剤を染み込ませ拭き取ってください。
●クレンザー等研磨剤の入った洗剤を使用すると本体に傷が付きますのでお避けください。
●お部屋のお掃除をする時に、本体の周囲及び右側面の吸気用スリットに付着した埃を
吸い取ってください。
●本体背面部に小さめのブラシ等が入る場合は、シーズン始めに埃を取り除いてください。

■吹き出しログリルの取外し方法

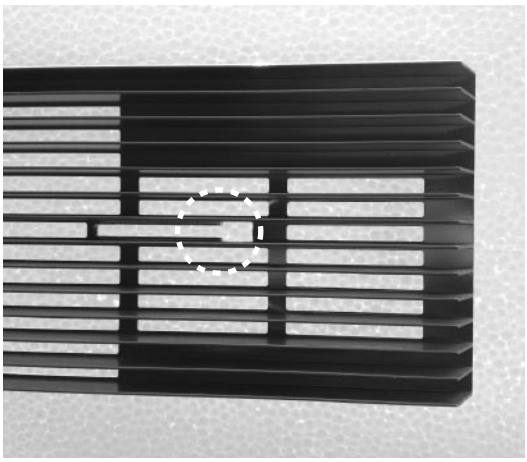
●ストッパービスを外し左右のビスを緩めることにより、吹き出しログリルを外すことが可能です。



①のストッパービスをドライバーで外して下さい。
②の吹き出しログリル固定ビスを緩めて下さい。
（左右共）



吹き出しログリルを左側へスライドさせて下さい。



◌の位置まで吹き出しログリル固定ビスが来るように、吹き出しログリルをスライドさせると取外しができます。

取り付け方法は逆手順にて取付けて下さい。

7．ご注意

●初期の蓄熱時に、臭いや煙の発生が見られることがありますが異常ではありません。
①初期の運転時に限り見られる現象です。
②内部の断熱材、ヒーター素子等に付着した油分や蓄熱レンガ等に含まれる湿気が原因です。
③数回に渡って蓄熱設定を徐に上げて運転を行うと現象は収まります。
※臭いや煙が発生した場合は、窓を開けるなどしてお部屋の換気を十分に行ってください。

●本体に音鳴りが発生することがありますが異常ではありません。
①通電開始後に通電音が聞こえる事があります。
②ファンを使用した強制放熱運転時や、ファンを停止した際に音が発生する事があります。
③本体が冷えたり加熱している時に音鳴りが発生する事があります。
※②、③は加熱・冷却により鉄板が伸縮する事により発生する音で危険性はありません。

●暖房器の近くや上に燃えやすい物を置かないで下さい。
木製のもの、洗濯物、洋服、新聞、毛布や家具を暖房器の上に置かないでください。
また、暖房器の（特に熱くなっている吹出しログリル）前に家具を50cmより近づけないでください。

●使用中は本体が熱くなります。（７０～８０℃）
低温やけどの恐れがありますので、小さなお子様やお年寄りのいるご家庭の使用にはご注意願います。

●蓄熱式電気暖房器は爆発性のガスや可燃性のホコリのある部屋では使用しないでください。
ホコリが出る大掃除の際は、ファンを切って運転するか、一時的に運転を中止してください。

●オルスバーグ蓄熱式電気暖房器は最適な安全調整を行っております。
不正な修理はお客様に大きな危険を与える可能性があります。
修理等は適切な資格を持ったサービス店で行ってください。

●蓄熱式電気暖房器は、周りの空気を暖め自然対流させる事でお部屋を暖めます。
自然対流し易いように、出来るだけ周りの離隔距離を大きくおとりください。

●修理の際、離隔距離が少なく本体を移動させる必要が発生した場合、修理代が割増になる事があります。

8．故障かな？と思ったら

●故障かな？と思ったらお問合せの前に以下の項目をご確認ください。

◇蓄熱式電気暖房器が暖まらない

・蓄熱設定ダイヤルが正しく設定されているかご確認ください。
・ブレーカーが上がっているかご確認ください。

◇ファンが回らない

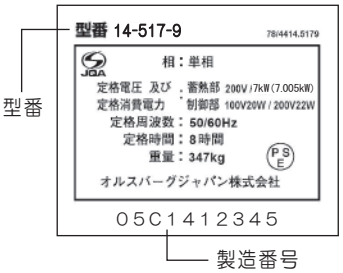
・室温設定ダイヤルが正しく設定されているかご確認ください。
・本体右側の離隔距離は十分確保されていますか？

●サービス（点検・修理）を依頼される場合は。

◇次の事をお知らせください。

①型番・製造番号・・保証書または、本体の右側面パネルの下側に貼られた銘板シールに記載されています。
②納品日・・・・・・保証書を確認ください。（入居日でも可）
③故障状況・・・・・いつ頃から、どのような症状が出ていたか？

◇銘板シール（サンプル）



9. 重要事項

①電気配線および接続工事は、内線規程に基き有資格者によってなされなければなりません。
②工事や点検・修理に際しては、事前に必ず配電盤の元電源を切ってください。
③設置床は、十分な対苛強度を有し水平で凸凹がないことを確認して下さい。
　●機器重量については、P31の仕様欄をご参考下さい。
④安定性を維持する為に、本体が水平面上に置かれる事が重要です。
　●カーペットや畳等不安定な床面上には設置できません。
⑤本器は壁にしっかり固定されなければなりません。
　●壁は、転倒防止金具の固定に十分な下地補強がされていることが必要です。
⑥使用中は表面が熱くなります。可燃物に対する離隔距離は、上面で150㎜以上、左側面で100㎜以上、右側面で150㎜以上、前面が500㎜以上です。
⑦蓄熱レンガの組込後の断熱は、同梱の断熱材を用いて熱漏れが無いように完璧に行ってください。
　●詳細はP21～27ページの「組立作業」編をご参照下さい。
⑧当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に瑕疵が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、ＢＬマークの証紙の貼付（又は刻印等）がされている部品については、一般財団法人ベターリビングのＢＬ保険制度により保険金が支給されます。
⑨ＢＬ優良住宅部品は住宅物件以外に取付けられた場合は優良住宅部品とはなりませんのでご注意下さい。
⑩ＢＬ保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、一般財団法人ベターリビングのホームページをご覧ください。（http://www.blhp.org/）

蓄熱式電気暖房器は、運びやすくする為に本体と蓄熱レンガは別々に梱包されています。
「オルスバーグ」製品は梱包を必要最低限にし、リサイクルされた原料で作られています。
パッケージや製品は、可能な限り別の原料にリサイクルしたり適切に処理できるようになっています。
〔重要〕パッケージとリサイクルできる部分、廃棄する使用済みの製品及び製品部位を分別してください。

10. お断り

①試運転や初めて通電した時に、煙や臭いの出る事もありますが異常ではありません。
　●初期の運転（通電）時に限り見られる現象です。
　●湿気やヒーター素子と本体に塗られた錆止め油、機械加工時の残り油等によるものです。
　●蓄熱量の設定方法は、取扱説明書をご参照下さい。
　●窓を開けたり換気扇を回す等の処置をし、部屋は十分な換気状態に保ってください。
②暖房器の性質上、不規則音の出る事がありますが異常ではありません。
　●蓄熱温度に起因した筐体の熱膨張・伸縮が原因です。
　●性能や安全性については、問題ありません。

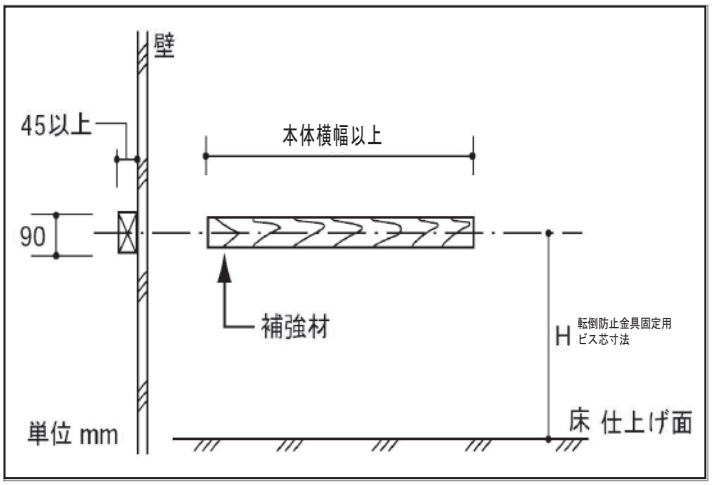
11. 事前の点検確認

※不具合がある場合は、その内容を関係者に伝え、手直しを要請してください。

■設置場所の下地補強

①設置床の強度、仕上げ材および水平度を確認する。
②転倒防止金具を取付ける壁下地の有無を確認する。

●暖房器の安定を確保する為に、水平面上に置かれる事が重要です。
●タタミやカーペット等不安定な床の上に設置する事はできません。
●タイル床等、素材の凸凹により設置面の水平が確保できない場合、厚さが24mm以上で本体と概ね同じ大きさの敷板の上に設置下さい。



■転倒防止金具固定用ビス芯寸法

H寸法（mm）	標準型（ｷｬﾗｯﾄ）	縦長型（ﾓﾝﾀﾅ）			横長型（ｾﾝﾁｭﾘｰ）
		14-534-9	14-535-9	14-536-9	
	610	778	906	1034	446

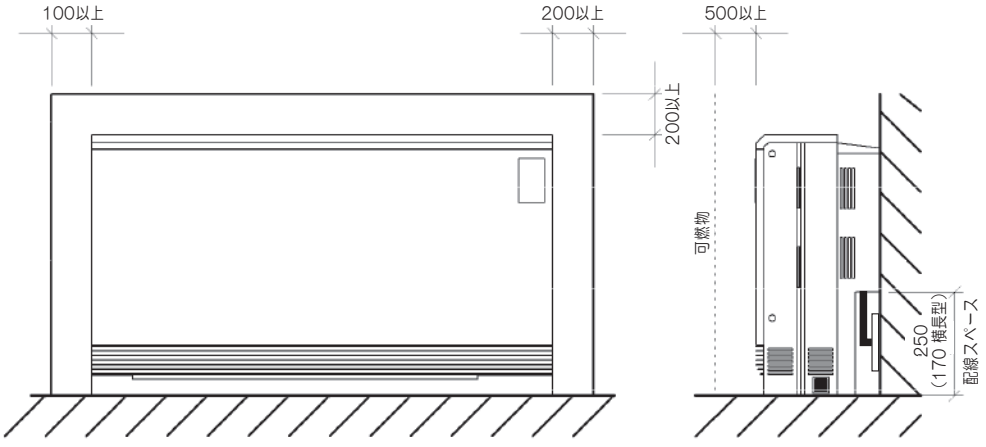
■障害物・可燃物に対する離隔距離について

①安全確保のため離隔距離は必ず確保してください。
●思わぬ故障の原因となったり、焼損などの被害を与える恐れがあります。
●離隔距離が不足すると暖房効率が低下します。

②点検や修理には、上部及び右側面の離隔は２００mm以上が望まれます。
●ファンの交換やヒーター交換時に必要な離隔距離です。
●縦長型はヒーター交換時に３４０～６００mm以上の上部離隔距離が必要となります。下表（注1）を参照ください。

③転倒防止金具は本体と一体となっておりますので、背面は壁に直付けとなります。

④右側面パネルに室温センサーが取り付けられております。
●右側面側の離隔が不足すると室温検知温度が高くなりファンの動作に支障をきたす事があります。



●設置時は、レンガとヒーター素子を組み込むのに下記の上部離隔が必要です。

	標準型（Carat）	縦長型（Montana）（注1）			横長型（Century）
型　　番	14-512～517-9	14-534-9	14-535-9	14-536-9	14-552～556-9
上部離隔距離	２００mm以上	３４０mm以上	４７０mm以上	６００mm以上	２００mm以上
配線スペース	２５０mm以上	２５０mm以上	２５０mm以上	２５０mm以上	１７０mm以上

アフターメンテナンスも考慮し離隔距離を必ず確保してください。

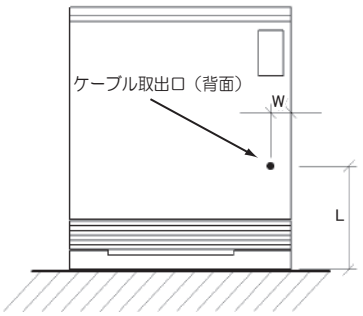
※上記離隔距離は本体を正常に動作させる為に必要な寸法であり、周囲の壁や棚等に対する影響を保証するものではありません。

■電気配線について

①一次側電源は、本体側電源ケーブル取り出し口付近に配線されている事。（図１）
②２００V用配線と共にアース線が配線されている事。
③内線規程に基いた配線がされていること。
※深夜電力契約の場合、電源部の繋ぎ変えをすることで、１００Vにてマイコンの作動が可能です。（P30「回路図」の「◇100Vにて放熱・制御回路に給電する場合」を参照）

機種型番	定格容量	電流容量	ﾌﾞﾚｰｶｰ容量	電源ケーブル仕様サイズ
14-512-9	単相200V 2kw	10A	15A	600V PVCケーブル 2.5mm²（約１m付属）（3.5mm）代替品
14-552-9				
14-513-9	単相200V 3kw	15A	20A	
14-553-9				
14-514-9	単相200V 4kw	20A	30A	600V PVCケーブル 4.0mm²（約１m付属）（5.5mm）代替品
14-534-9				
14-554-9				
14-515-9	単相200V 5kw	25A	40A	600V PVCケーブル 6.0mm²（約１m付属）（8.0mm）代替品
14-535-9				
14-555-9				
14-516-9	単相200V 6kw	30A	40A	
14-536-9				
14-556-9				
14-517-9	単相200V 7kw	35A	50A	600V PVCケーブル 10.0mm²（約１m付属）（14.0mm）代替品

（図１）



	標準型	縦長型	横長型
W寸法	53mm	49mm	49mm
L寸法	250mm	250mm	170mm

※一次配線は本体中心より右側に出してください。
※本体付属ケーブルの長さは、約1mです。

12. 設置工事の段取り手順

■蓄熱レンガの確認

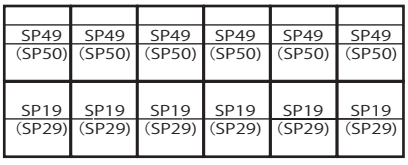
各機種ごとに使用する蓄熱レンガが異なりますので、下記表にて使用レンガの確認をして下さい。
また、外装カートンにも使用レンガの品番と個数が記載されております。

標準型 キャラット	レンガ品番			
	SP19	SP49	SP29	SP50
14−512−9	2	2	---	---
14−513−9	3	3	---	---
14−514−9	4	4	---	---
14−515−9	5	5	---	---
14−516−9	6	6	---	---
14−517−9	---	---	6	6

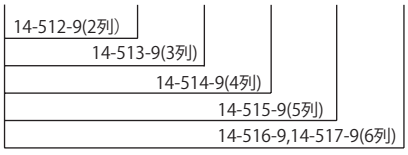
縦長型 モンタナ	レンガ品番		
	SP27	SP37	SP46
14−534−9	3	---	3
14−535−9	4	1	3
14−536−9	6	---	3

横長型 センチュリー	レンガ品番
	SP46
14−552−9	4
14−553−9	5
14−554−9	6
14−555−9	8
14−556−9	9

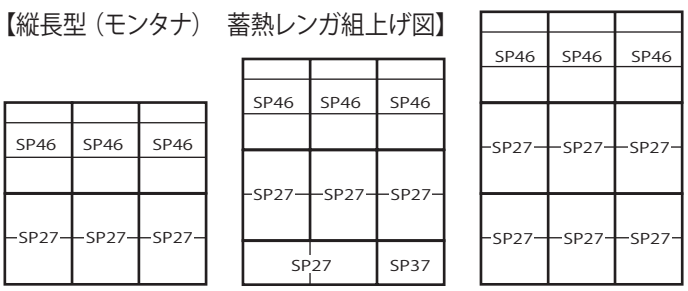
【標準型（キャラット） 蓄熱レンガ組上げ図】



※14-517-9のみSP29,SP50を使用

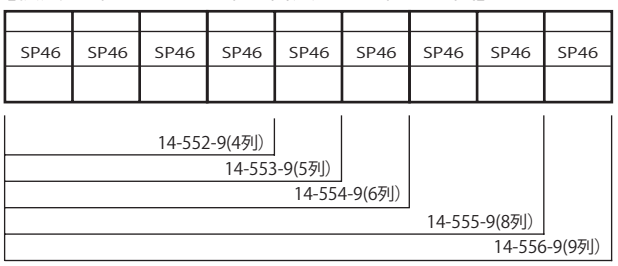


【縦長型（モンタナ） 蓄熱レンガ組上げ図】

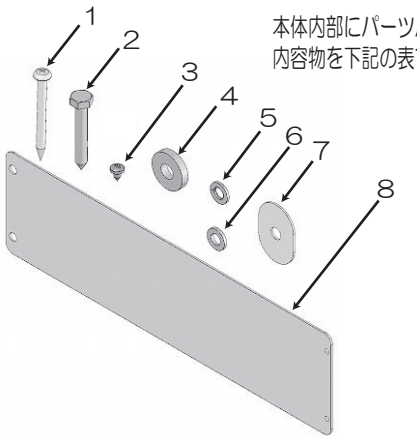


14-534-9　14-535-9　14-536-9

【横長型（センチュリー） 蓄熱レンガ組上げ図】



■同梱部材の確認

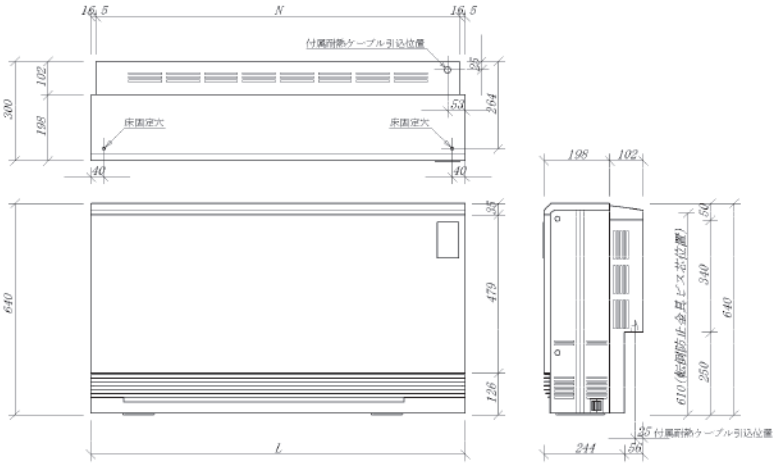


本体内部にパーツバッグが同梱されています。
内容物を下記の表で確認してください。

部品名称 ＼ 対応機種		14-512-9 14-513-9 14-552-9 14-53_-9	14-514-9 14-515-9 14-516-9 14-517-9	14-553-9 14-554-9 14-555-9 14-556-9
1. ネジ 4.5x50		3（4）※1	4	4
2. 六角ボルト 6x40		2	2	2
3. ネジ 3.5x6.5		2	4	4
4. ワッシャ 8.4		2	2	2
5. スプリングワッシャ		2	2	2
6. ワッシャ 6.4		2	2	2
7. 絶縁マイカ		6	6	6
8.	補強金具 60x224	---	1	---
	補強金具 60x269	---	---	1

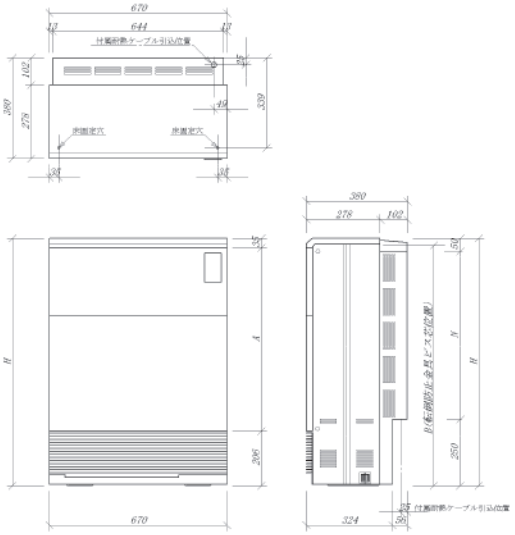
※1：（ ）内は、１４－５３＿－９の本数です。

13. 機種別 各部詳細寸法図



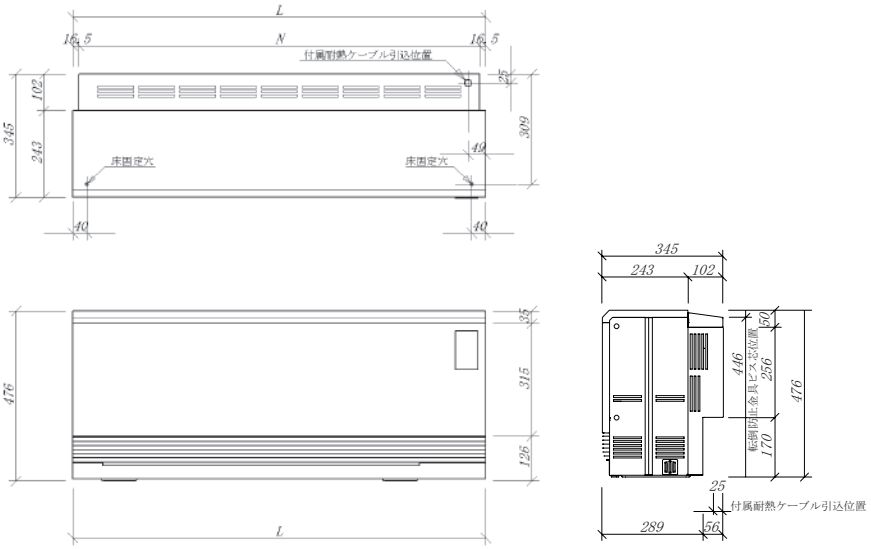
◇標準型（Carat）

	L（mm）	N（mm）
14-512-9	575	542
14-513-9	750	717
14-514-9	925	892
14-515-9	1135	1102
14-516/517-9	1310	1277



◇縦長型（Montana）

	H（mm）	N（mm）	A（mm）	B（mm）
14-534-9	805	505	564	778
14-535-9	933	633	692	906
14-536-9	1061	761	820	1034

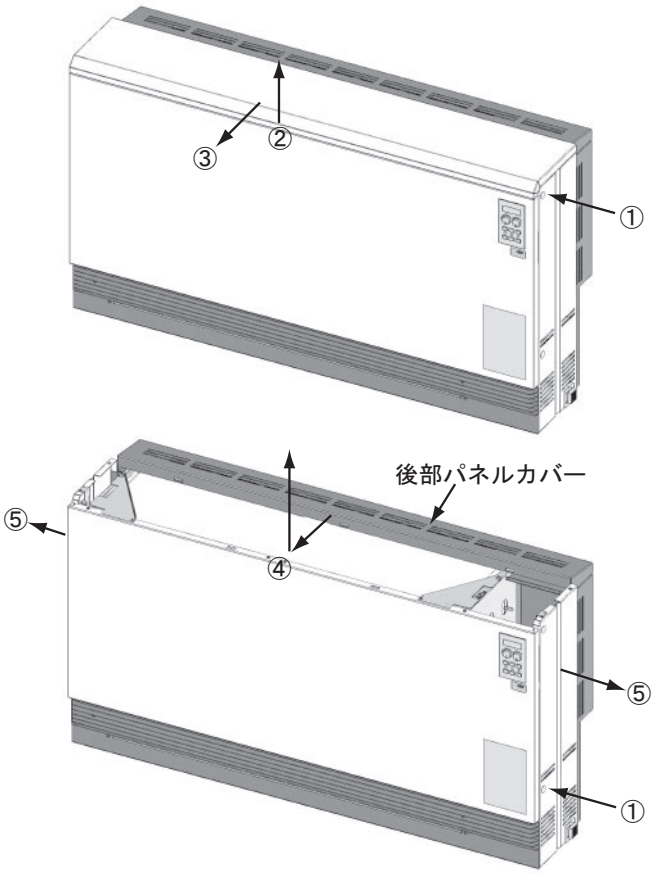


◇横長型（Century）

	L（mm）	N（mm）
14-552-9	860	827
14-553-9	1010	977
14-554-9	1160	1127
14-555-9	1460	1427
14-556-9	1610	1577

14. 組立作業 ※工事の際は手を痛めないよう軍手等をご使用下さい。

※注意：転倒防止金具の固定は、蓄熱レンガの組み込み後に実施してください。（P26参照の事）

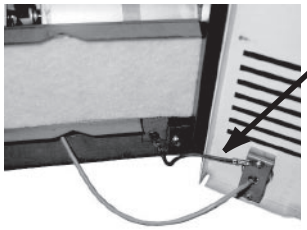


1．上面パネルの取り外し

●側面パネルの白いビスキャップを外し、止メビスを外します。ー①
●上面パネルの手前側を上に持ち上げ手前に引くと上面パネルが外れます。ー②③

2．後部パネルカバーと側面パネルの取り外し

●後部パネルカバーは手前に引いた後、上に持ち上げると外れます。ー④
●下側の白いビスキャップを外し、止メビスを外すと側面パネルが外れます。ー①⑤



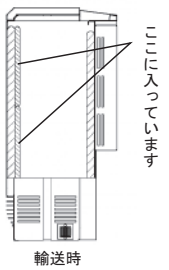
※右側の側面パネル内には、室温センサーのアース線が繋がっています。
無理に引っ張るとアース線を痛めますので注意してください。

3．同梱部品の取り出し

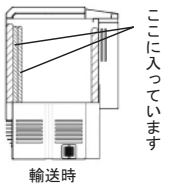
●本体の中に同梱されている下記部品を取り出します。
- ヒーター素子　×３本
- パーツバッグ　×１袋
- ガイドプレート　×２枚
- 上面マイクロサーム　×２枚
- 前面上マイクロサーム×１枚（14-535-9及び14-536-9のみ）

●上面マイクロサーム（２枚）は前面側に収められているので下の図を参考に取り出して下さい。

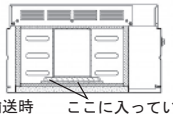
［標準型］



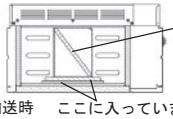
［横長型］



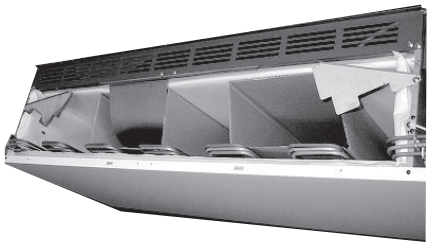
［縦長型］14-534-9の場合



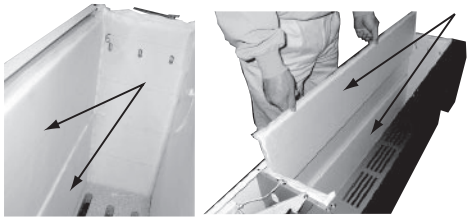
［縦長型］14-535-9又は、14-536-9の場合



標準型の同梱例

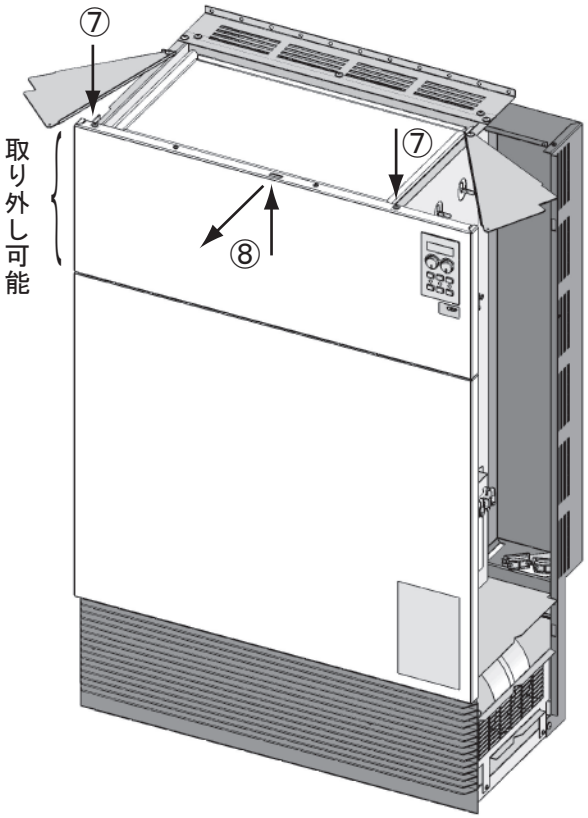


標準型の上部マイクロサーム取出し例



◇縦長型（モンタナ）14-535-9、14-536-9の補足説明

※縦長型の５ｋW/６kWは、蓄熱レンガを組込む際に上部前面パネルを外します。



４．上部前面パネルの外し方

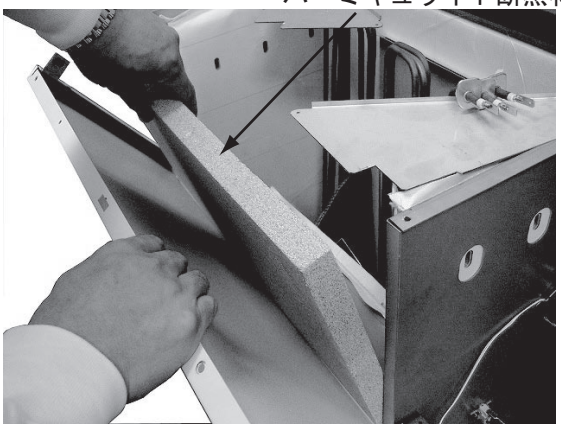
●上面パネル、後部パネルカバー、左右側面パネルを外します。

●操作部の背面カバーを外し、マイコンの接続ケーブルコネクター（赤）を外します。
※爪を折らないように慎重に取り外してください。

●上部前面パネル上部の固定ネジｘ２を外します。－⑦

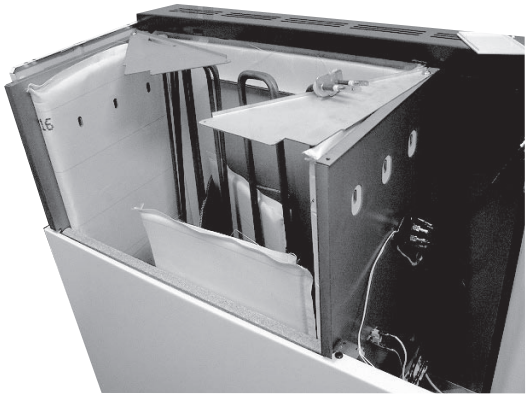
●上部前面パネルを少し上に持ち上げながら手前に傾けます。－⑧

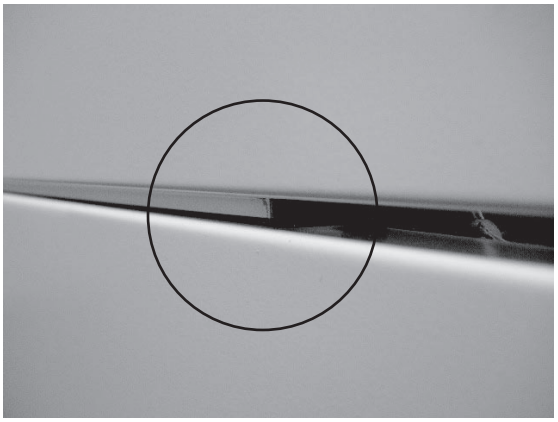
バーミキュライト断熱材

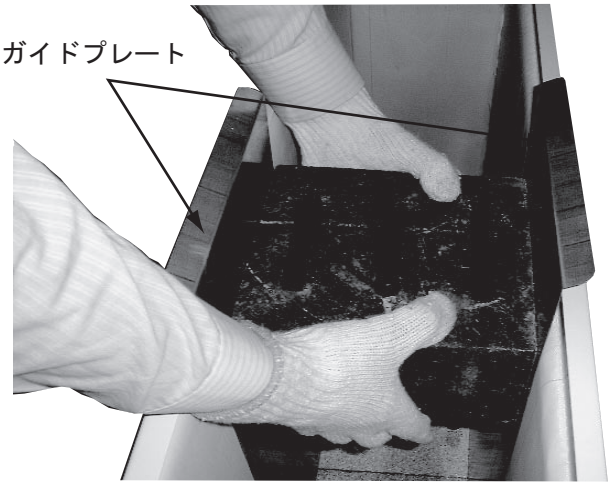


●前面パネルの裏側にあるバーミキュライト断熱材を抜き取ります。
※バーミキュライト断熱材は、前面パネルと側面マイクロサームの間に挟まれてますので、前面パネルを外す時に、落とさないように注意してください。

●上部前面パネルは、あわせ部分で下部前面パネルに差し込まれています。
パネルに傷を付けない様に気をつけながら取り外してください。







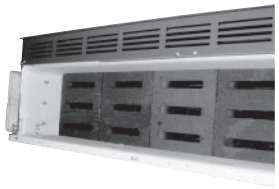
5．蓄熱レンガの組み込み

※この時転倒防止金具の壁固定はまだ行いません。
レンガの組込み後に壁固定を行います。

●本体を設置場所に置いた後、ガイドプレートを用いて、
蓄熱レンガ（最上部は除く）を組込みます。－⑨
※ガイドプレートは、蓄熱レンガを組込む際マイクロサーム
を傷めない為の道具です。施工完了後は廃棄します。

蓄熱レンガ組み込み時の注意

・レンガの間に隙間が生じた場合はゆっくりとレンガを押して隙間を詰めて下さい。
この時、決してレンガを叩いたり、ぶつけたりして衝撃を与えないで下さい。
特に操作パネル側に強い衝撃が当たるとコアセンサー故障の原因となります。

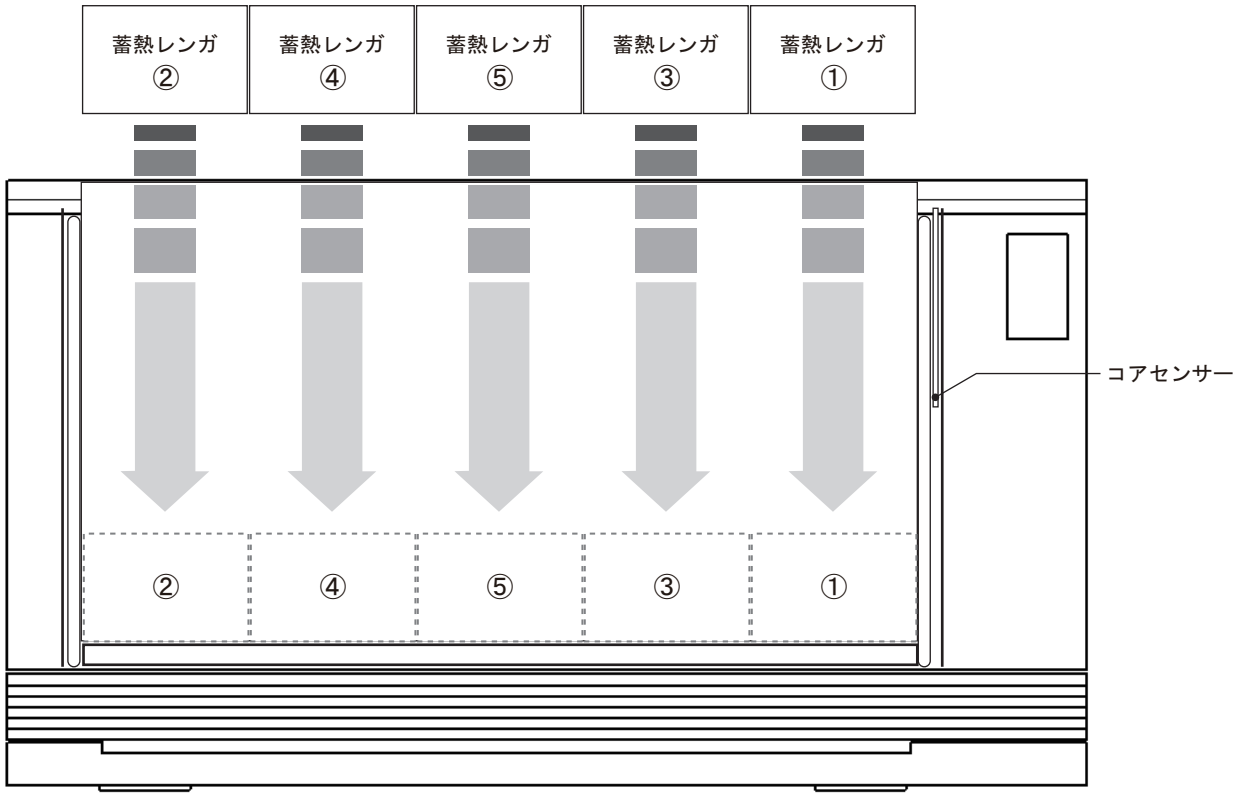


※底部断熱材の通気孔の向きと、蓄熱レンガの通気孔の向きが一致する様に組込みます。

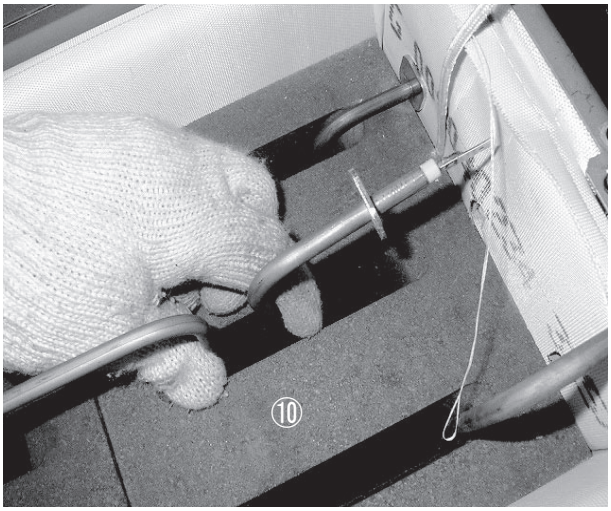
蓄熱レンガの組み込み手順

❶ レンガは真上から静かに挿入し、一番下段のレンガから組み込んでいきます。
その際、レンガは両端から中央への順で組み込みます。（下図を参照）
挿入したレンガを左右にしっかりと寄せてから次のレンガを入れていきます。
※使用するレンガは P19（組上げ図）を参考にしてください。
❷ ヒーター孔に面取りのあるレンガは、面取り側が上面となります。
❸ レンガ間のスキ間が均一になる様に調整してください。

レンガ挿入順序



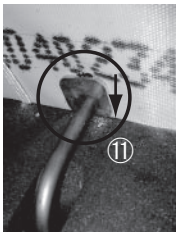
正面図



６．ヒーター素子の組み込み

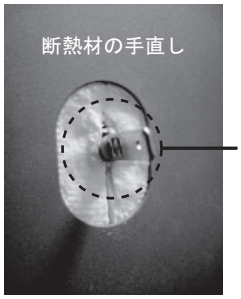
●蓄熱レンガの通気孔にヒーター素子を差し込みます。
ヒーター素子の両端を指で摘み、側面マイクロサームの穴に差し込みます。－⑩

※側面マイクロサームにヒーター素子の端子を差し込む際、先端の端子部分でマイクロサームを切らない様に十分注意してください。



ヒーター素子の両端に固定されているストッパーは、蓄熱レンガと側面マイクロサームの隙間に収まります。－⑪

※収まりが不十分な場合、トップの蓋レンガの収まりが悪くなったり、ヒーター通電時の異音の原因になる事があります。



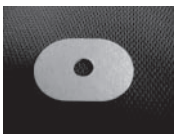
押し戻して形整する

７．ヒーター素子の結線

●ヒーター素子の接続端子部によって外側に押し出された断熱材を元に戻してください。

●パーツバックに入っている「絶縁マイカ」をヒーター素子に取り付け、インナーパネルと断熱材の間で３０度程度回転させ固定します。
※小型のマイナスドライバーを使用すると作業がし易いです。

●左右側面パネル内にあるヒーター線をそれぞれ接続します。
端子は真っ直ぐに押し込み、奥まで入っている事を確認して下さい。
※端子はきつくても決して広げたりしないで下さい。
※端子の差込が不十分だと発熱・焼損することがあります。



絶縁マイカ

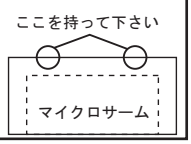
◇絶縁マイカは、ヒーター素子と筐体の絶縁を確保する部品です。
施工時には必ず取付してください。

8．蓋レンガと上面マイクロサームの組み込み

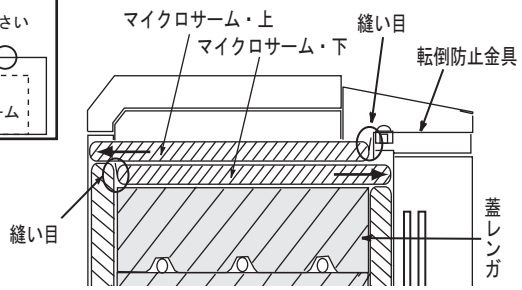
蓋レンガを組み込んだ後、上面マイクロサームを組み込みます。

マイクロサーム（断熱材）の取り扱い方

●マイクロサームは形崩れし易いので本体を持たずに縫い目を持って下さい。
※形崩れすると断熱性能が著しく損なわれるのでご注意下さい。
●マイクロサームの装着時は位置を均等に調整し、確実に装着して下さい。
※不完全な装着では熱漏れが発生し、変色や故障の原因となる場合があります。
※開梱時に上部マイクロサームが収められている場所は機種により異なります。
本体同梱の赤紙をお読みになるか、下記の図を参考にして下さい。



＜マイクロサームの向き＞

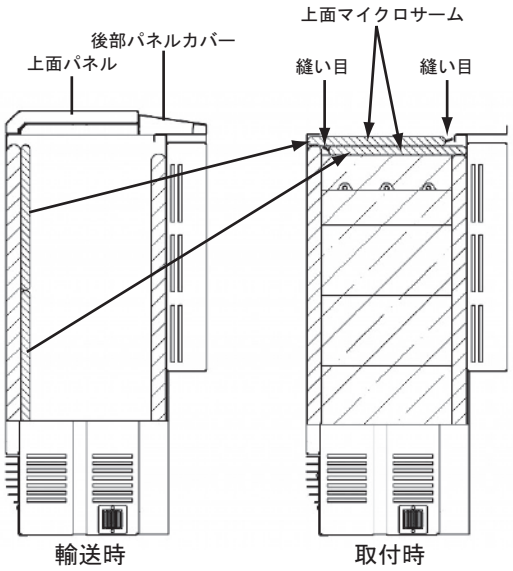


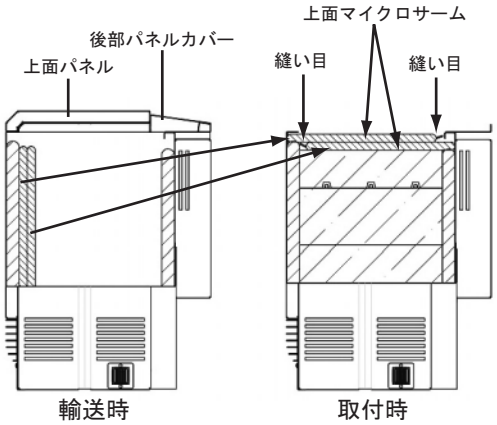
●上面･下マイクロサームの組込
縫い目を手前にし、後部は転倒防止金具と背面マイクロサームの間に差し込んでください。

●上面・上マイクロサーの組込
縫い目を奥側にし、手前側は前面パネルと前面マイクロサームの間に差し込んでください。

■標準型（キャラット）／横長型（センチュリー）

●上面にはマイクロサームを２枚組み込みます。
●サイズは同一ですが、組み込んだ向きが異なります。
右図を参考に行って下さい。

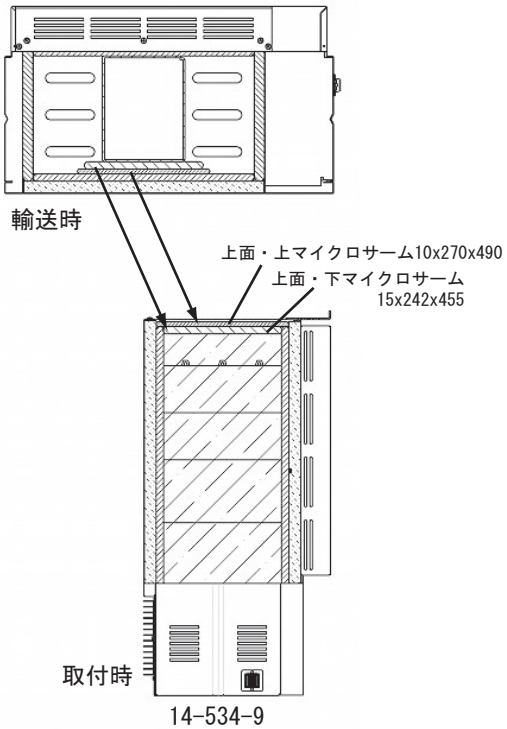




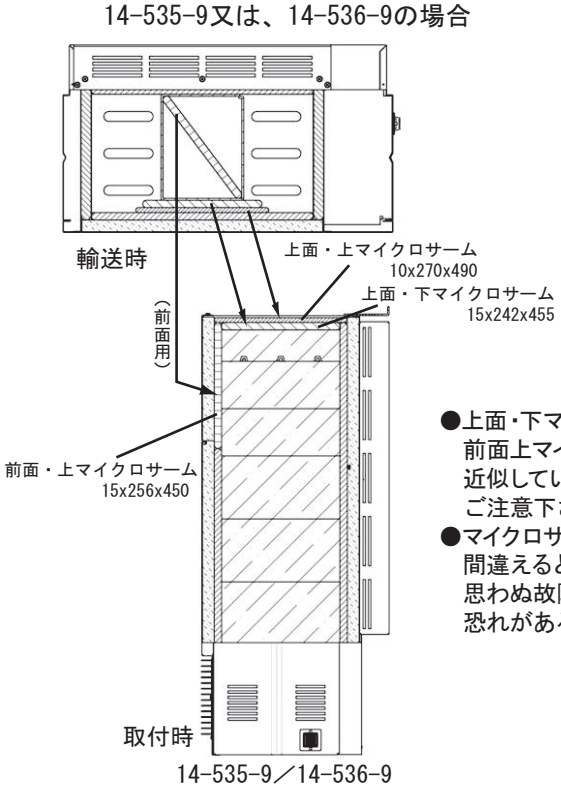
■縦長型（モンタナ）

●14-534-9(4kW)：上面マイクロサーム x ２枚。
14-535-9(5kW)／14-536-9(6kW)：上面マイクロサーム x ２枚 ＋ 前面・上マイクロサーム x １枚。
下図を参考に断熱材の組み込みを行ってください。

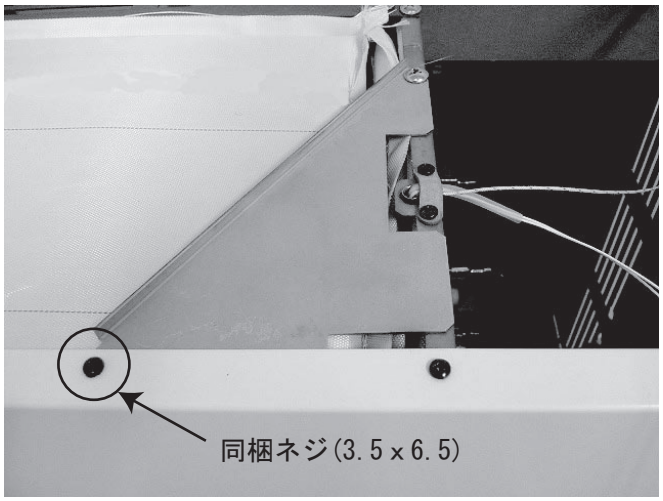
14-534-9の場合



14-535-9又は、14-536-9の場合

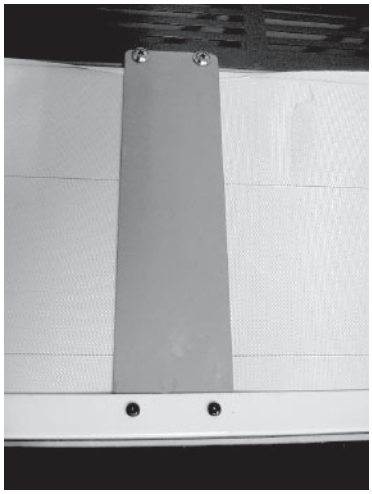


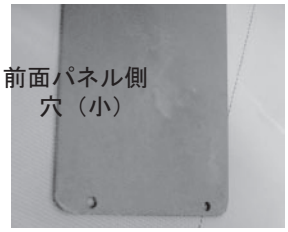
●上面･下マイクロサームと
前面上マイクロサームのサイズは
近似しているので間違えないように
ご注意下さい。
●マイクロサームの組み込み場所を
間違えると高温の熱が漏れ、
思わぬ故障や事故につながる
恐れがあるのでご注意下さい。



９．補強金具の取り付け

●左右の三角プレートを同梱のネジ（3.5 x 6.5）を使用して前面パネルに固定します。



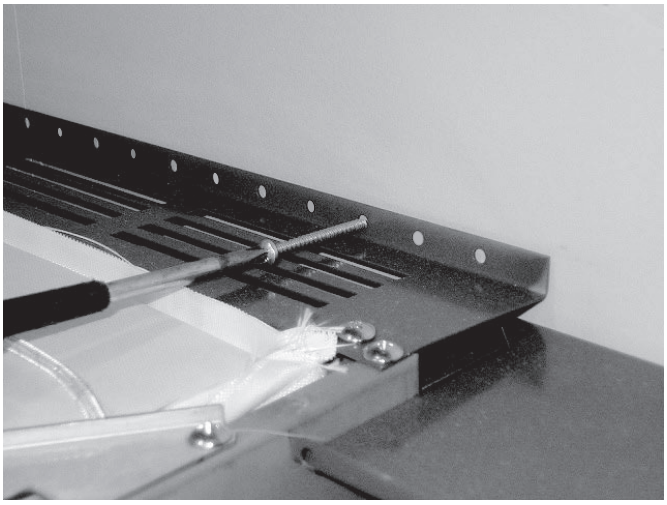


●付属の補強金具を固定します。

標準型　４～７ｋＷ
横長型　３～６ｋＷ　のみ付属

〔前面パネル側〕
前面パネルの下側に補強金具を差込、同梱ネジ(3.5 x 6.5) x ２本で固定します。

〔転倒防止金具側〕
転倒防止金具のネジを外し、補強金具と共締めします。

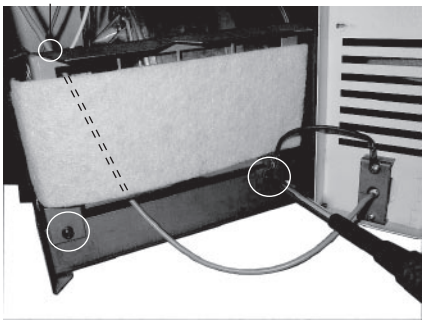


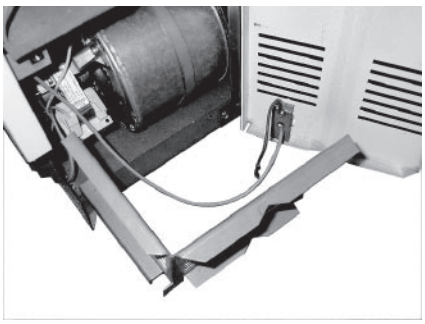
10．転倒防止金具の固定

※レンガ組み込み後に行います。
●同梱ネジ(4.5 x 50)を使用し、壁に転倒防止金具を固定します。

※転倒防止金具には25㎜ピッチの穴があけてありますので、必ず有効な下地に固定してください。
※壁固定は同梱ネジと同等の機能を持つネジを用いて追加固定することも可能です。
（空き穴を使用します）

室温センサーガイド



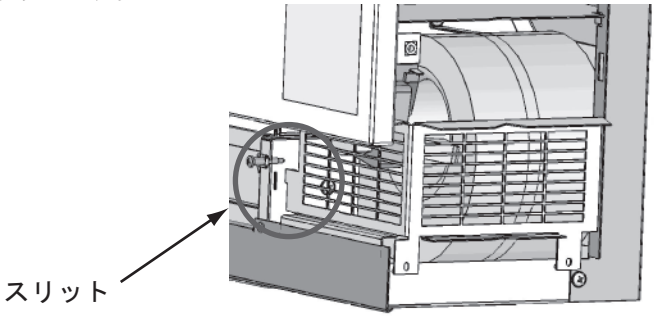


11. 床固定

●右側面パネル内にあるファンフィルターとフィルターガイドを取り外します。フィルターガイドは２本のネジで固定されています。また、フィルターガイドは奥側でスリットに差し込まれています。組みつけの際、スリットにしっかり挿入されている事を確認してください。

※奥側のネジには室温センサーのアース線が共締めされています。組みつけの際忘れずにアース線を取り付けてください。

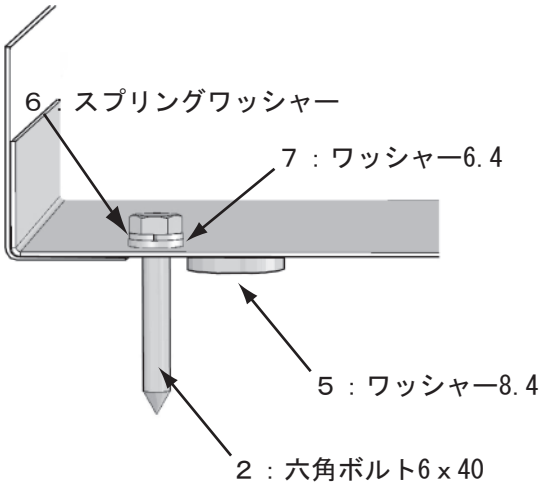
●設置場所に本体を仮置きし、床固定用の下穴の墨出しをし、3.5㎜の下穴をあけます。



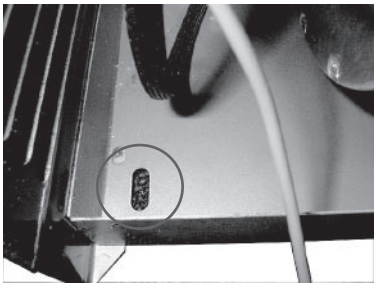
●パーツバックに同梱されている床固定用の六角ボルト・ワッシャーを使用して床固定をします。

※「５」のワッシャーは「２」の六角ボルトを通さずに、六角ボルトの脇の底面パネルと床の間に挟んでください。

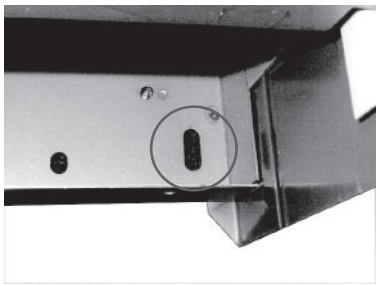
※壁面の有効な下地への固定が取れている場合は、床面への締め付け過ぎにご注意ください。



床固定穴（右側）



床固定穴（左側）



12. 外装パネルの組み付け

●外装の取り外しの逆の手順で外装を組みます。

※パネルの間にケーブル類をはさまないようご注意下さい。

※本体の汚れ傷等の確認を行ってください。

●吹出グリルの取付けビスは輸送時に強く締まっています。ビスを緩めることでグリルのスライドが可能です。

※設置状況によってはスライドしにくい場合があります。

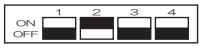
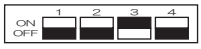
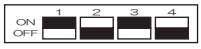
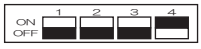
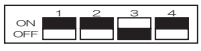
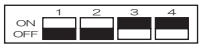
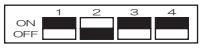
15. 夜間電力時間の設定

取扱注意

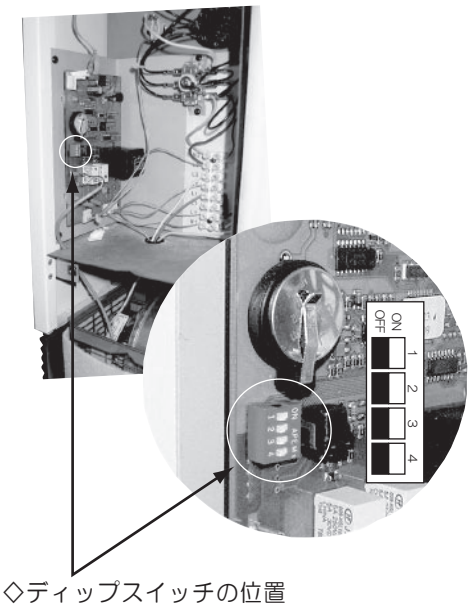
設置後の設定変更は電力契約の内容に基づきます。誤った設置は高額な電気料金や誤作動の原因になりますので詳しくは販売店にお問い合わせください。

メイン基板上にあるディップスイッチを切り替える事で、お客差の契約内容に合わせた運転が可能です。
各電力会社の契約メニューを良く確認のうえ、必要に応じて切り替えてください。

・時間帯別電灯契約とは、24時間200Vが給電されていることを表します。
・深夜電力契約とは、電力会社のタイマーにより夜間に決められた時間のみに200Vが給電されていることを表します。

モード	ディップスイッチの位置	設　定　内　容
0		時間帯別電灯契約 ８時間　（２３時～７時）
1		時間帯別電灯契約 ９時間　（２３時～８時）
2		時間帯別電灯契約 10時間　（２２時～８時） ※８時蓄熱完了
3		深夜電力契約 ８時間　（２３時～７時）
4		モード０と同じ
5		時間帯別電灯契約 ８時間　（２２時～６時）
6		時間帯別電灯契約 ８時間　（２４時～８時）
7		メンテナンスモード（通常運転には使用不可） ※1
8		深夜電力契約 ８時間　（２２時～６時）
9		深夜電力契約 ８時間　（２１時～５時）
10		深夜電力契約 ８時間　（２４時～８時）
11		深夜電力契約 ８時間　（１時～９時）
12		深夜電力契約 ９時間　（２３時～８時）
13		時間帯別電灯契約 10時間　（２２時～8時） ※７時蓄熱完了
14		メンテナンスモード（通常運転には使用不可） ※1
15		メンテナンスモード（通常運転には使用不可） ※1

※１については最寄の弊社事業所に確認願います。



◇ディップスイッチの位置
ディップスイッチは、上から下に向かって
１→４の順番になっています。
側面パネル側がOFF、本体側がONです。

注１）工場出荷時は「モード０」または「モード４」に設定されています。（時間帯別電灯契約８時間 ２３～７時）
注２）黒く塗りつぶした位置がスイッチの位置です。
注３）各電力メニューの夜間電力終了時刻に合わせて通電制御機能が働きます。
注４）ディップスイッチを切り替えた場合、ブレーカーを再投入してください。
注５）ディップスイッチの設定は停電等があってもリセットされません。

16. 電源ケーブルの接続と配線

■本機には、予め耐熱電源ケーブル（Ｌ=１ｍ）が装着されております。

●1電源方式を採用しておりますので、２００Ｖ電源を接続するだけで、蓄熱・放熱・制御回路全てが駆動可能です。
●タイマー等で昼間電力（２００Ｖ）が遮断される場合（深夜電力契約等）は、配線部の繋ぎ替えを行う事で放熱、制御回路を１００Ｖで駆動させることが出来ます。
※P30の回路図に記載してある「◇100Vにて放熱・制御回路に給電する場合（２電源方式）」欄をご参照ください。
※１００Ｖ給電する場合は、必ず耐熱ケーブルを使用してください。

◇電源ケーブルの接続と配線について

①電源ケーブルの接続は、ジョイントボックス内で行ってください。
②第三種設置工事が必要です。
③電源端子台の接続ビスの増し締めを行ってください。
④耐熱ケーブルの取り回しは、背面パネルに触れない様処理してください。
⑤本体付属の耐熱ケーブルを外して、電源端子台へ直接繋ぎ込む事はおやめください。

◇電気試験の実施

①各ヒーター素子及びファン回路の導通確認。
②絶縁抵抗の測定
　●設置直後は、湿度の関係で抵抗値が低い場合があります。この場合、通電すると湿気が飛んで抵抗値は上がります。
　●内線規程では、0.2MΩ以上です。

17. 試運転

※お客様に引き渡す前に以下のことを確認してください。

■初期の蓄熱時に臭いや煙の発生する事がありますが異常ではありません。

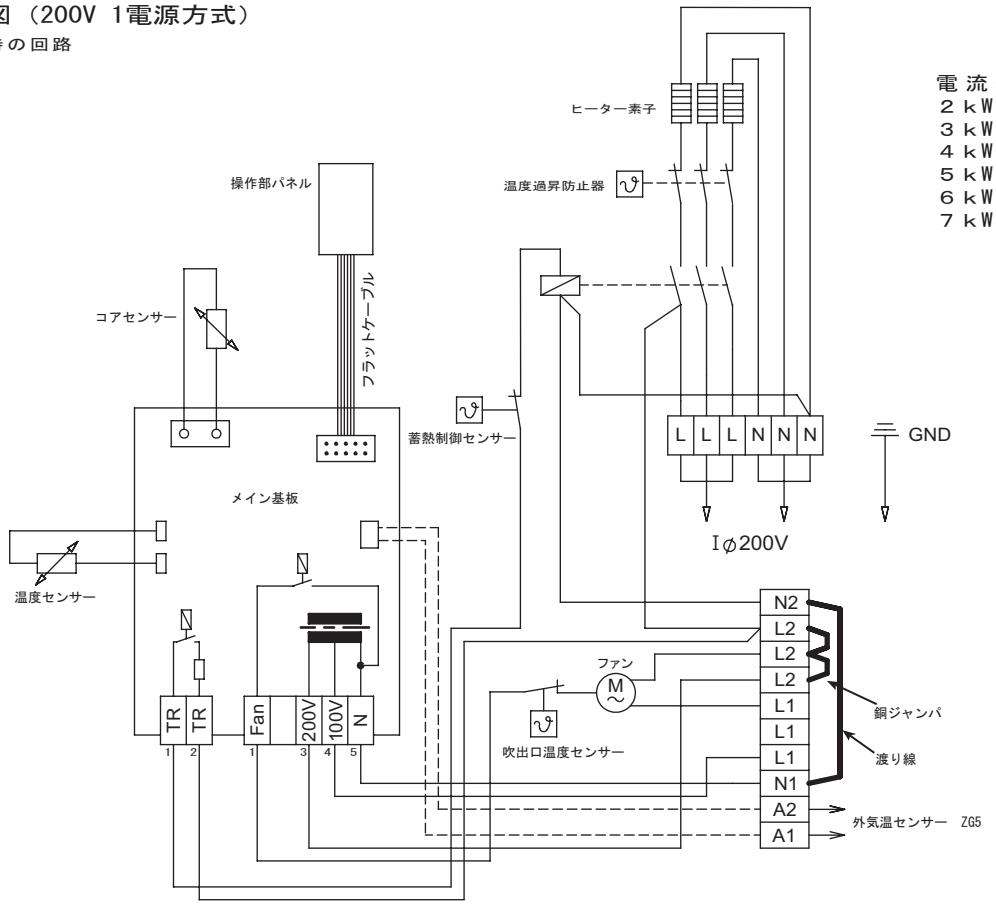
●湿気やヒーター素子と本体に塗られた錆止め油、機械加工時の残り油等によるものです。
施工後に必ず試運転を兼ね蓄熱を行ってください。
●初期の運転時は、湿気による影響を避ける為に、30%→50%→100%のように段階的に蓄熱量を増やす事をお勧めします。
●２００Ｖ電源が遮断されている場合は、追い焚き等の通電が出来なくなるのでご注意ください。

◇試運転の手順

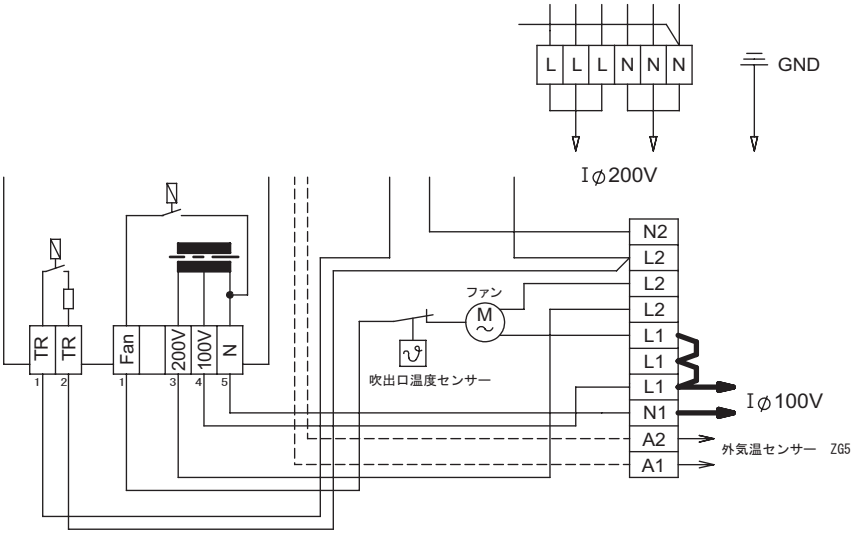
①電源ブレーカーを上げ、ディスプレィ表示の確認を行ってください。
②現在時刻の確認を行い、時刻合わせを行ってください。
　工場出荷時に時計をセットしておりますが、誤差が生じている事があります。
③２００Ｖ電源端子台に正規の電圧が掛かっている事を確認してください。
④「追焚き」ボタンを押し、強制通電を行い電流値の確認を行ってください。
　サーマルリレーの働きにより、電流が流れ始めるまでに数分掛かります。
　２００Ｖ電源端子台のＮ相又はＬ相にクランプメーターをセットし電流値を測定します。
　適正電流値はP30の回路図に記載してあります。
⑤ファンボタンを押し緑ランプを点灯させた後、室温ダイヤルを回して現在室温付近でファンが動作することを確認してください。
　その際、ファンから異音が無い事を確認してください。

18. 回路図

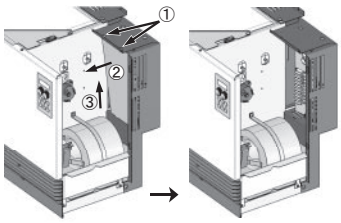
◇標準回路図（200V 1電源方式）
※工場出荷時の回路



◇100Vにて放熱・制御回路に給電する場合（2電源方式）
※100Vの給電の際は、別売の100V耐熱ケーブルを使用してください。



◇横長型の100Vケーブル取付方法



①上部カバープレートのネジを２本はずす。
②カバープレートを前方に倒します。
③カバーを引き抜きます。

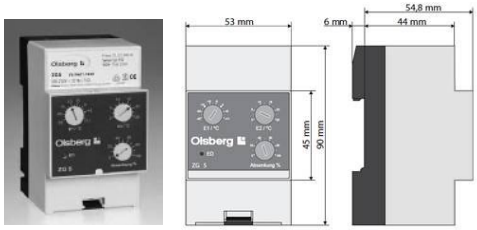
◇2電源方式への変更の仕方

①N１-N２に接続されている水色の渡り線を外す。
②L２-L２-L２に入っている銅ジャンパ片を、
　L１-L１-L１に移動する。
③L１とN１に１００V用耐熱ケーブルを取付ける。

◇2電源方式変更後の確認

①正しく変更されたかどうかの指差確認。
②ビスの締め付けトルクの確認。

19. ZG5 外気温センサー（オプション品）



●当該機器は外気温を常にモニターし蓄熱式電気暖房器に必要な蓄熱量を経済的かつ効果的に自動的に調整します。

20. 製品仕様書

型番			標準型（キャラット）						縦長型（モンタナ）			横長型（センチュリー）				
			14-512-9	14-513-9	14-514-9	14-515-9	14-516-9	14-517-9	14-534-9	14-535-9	14-536-9	14-552-9	14-553-9	14-554-9	14-555-9	14-556-9
定格電圧（V）			単相２００Ｖ　１電源方式（蓄熱・送風・制御部）　※制御部及びファンは配線部の繋ぎ替えで１００Ｖによる駆動可能。													
定格容量	蓄熱部（kW）		2.010	3.000	4.005	5.010	6.000	7.005	4.005	5.010	6.000	2.010	3.000	4.005	5.010	6.000
	送風部（W）※（ ）内は100V駆動時		11(11)	12(12)	13(13)	22(20)			22(20)			13(13)	22(20)			
蓄熱レンガ	素材		○酸化マグネシウムを主体とした特殊セラミック					○酸化鉄を主体とした特殊セラミック								
	使用箱数	SP19	2	3	4	5	6									
		SP49	2	3	4	5	6									
		SP29						6								
		SP50						6								
		SP46							3	3	3	4	5	6	8	9
		SP27							3	4	6					
		SP37								1						
定格熱量（kWh）			16.08	24.00	32.04	40.08	48.00	56.04	32.04	40.08	48.00	16.08	24.00	32.04	40.08	48.00
有効蓄熱量（kW）			13.74	20.60	27.74	35.03	42.03	49.52	28.30	35.55	42.88	13.73	20.81	28.20	35.37	42.45
有効蓄熱率（%）			85.5	85.8	86.6	87.4	87.6	88.4	88.3	88.7	89.3	85.4	86.7	87.5	88.3	88.4
ヒーター素子			○ステンレスシーズヒーター													
断熱材			○マイクロサーム及びマルチサーム550						○マイクロサーム及び　バーミキュライト			○マイクロサーム及びマルチサーム550				
送風機			○シロッコファン													
	騒音値（dB）		24.2	23.4	25.8	25.7	25.1	25.1	25.9	25.7	25.1	26.4	26.3	25.8	25.7	25.1
蓄熱量調節器			○PT100センサー													
			○OFF：215℃													
			○蓄熱量調節器：無段階調節													
放熱量調節器			○室温センサー													
			○設定温度に応じファンを自動ON－OFF													
安全装置	温度過昇防止器		○OFF：135℃					○OFF：150℃	○OFF：135℃							
			○手動復帰型													
	蓄熱制御センサー		○125℃自動復帰型						○112℃自動復帰型							
	送風温度調整ダンパー		○バイメタル方式													
			○吹出し口温度に応じ自動開閉													
	転倒時給電停止装置		○フォトセンサー　360°　の方向に25°　の傾斜で作動													
			○正常姿勢に戻した後200V（100V）電源を再投入													
			○ヒーター及びファン電源を遮断													
	吹出し口温度センサー		○OFF・・・125℃						○OFF・・・85℃			○OFF・・・125℃				
	エラー表示	＃1	室温センサーエラー・・・室温センサーの異常													
		＃2	コアセンサーエラー・・・コアセンサーの異常													
		＃3	蓄熱回路エラー・・・蓄熱回路又は蓄熱制御回路に不具合が生じ、正常に蓄熱されなかった場合に表示。													
		＃4	転倒センサー・・・本体の傾きが25°　以上の傾斜を感知すると表示。													
		＃5	基板周辺温度上昇・・・熱篭り等により基板周辺温度が規定値より上がると表示。													
		＃6	CPU基板異常													
		＃7	時計読込み異常・・・電源投入時に時計の読込みに不具合が合った場合表示。													
		＃8	CPU基板異常													
		＃9	CPU基板異常													
	転倒防止機能		○プレート状転倒防止金具にて背面壁固定 及び 床固定													
200V電源用耐熱ケーブル（mm^2）（ ）内は、代替品			2.5（3.5）		4.0（5.5）	6.0（8.0）		10.0（14.0）	4.0（5.5）	6.0（8.0）		2.5（3.5）		4.0（5.5）	6.0（8.0）	
寸法	幅（mm）		575	750	925	1135	1310		670			860	1010	1160	1460	1610
	高さ（mm）		640						805	933	1061	476				
	奥行（mm）		300						380			345				
重量（kg）			100	140	180	225	265	347	230	280	330	148	181	215	281	314